

令和5年度
広島市立美鈴が丘高等学校
教育課程
年間授業計画
－ シラバス －



第3学年

目 次 (第3学年)

教育課程 (令和3年度入学者)	1
評価および評定の基準について	2
【国語】	
現代文B	3
古典B (文科型)	5
古典B (理科技型)	7
【地歴・公民】	
世界史研究 (文科型)	9
日本史研究 (文科型)	11
地理研究 (文科型)	13
地理B (理科技型)	15
倫理 (文科型)	17
政治経済 (2単位) (文科型)	19
政治経済 (4単位) (文科型)	21
【数学】	
数学Ⅲ (理科技型)	23
発展数学 (理科技型)	25
数学演習A (文科Ⅰ型)	27
数学演習A (文科Ⅱ型)	29
数学演習B (文科Ⅰ型)	31
【理科】	
物理 (理科技型)	33
化学基礎演習 (文科型)	35
化学 (理科技型)	37
生物基礎演習 (文科型)	39
生物 (理科技型)	41
地学基礎演習 (文科型)	43
【保健体育】	
体育	45
【芸術】	
音楽表現	47
美術表現	49
書道表現	51
音楽研究	53
美術研究	55
書道研究	57
【外国語】	
コミュニケーション英語Ⅲ	59
英語表現Ⅱ	61
英語研究	63
【家庭科】	
子どもの発達と保育	65
フードデザイン	67
【総合的な探究の時間】	
探究×進取	69

広島市立美鈴が丘高等学校 令和3年度入学者教育課程

	1年		2年		3年					
	普通		普通		普通					
			文科型	理科型	文科Ⅰ型A	文科Ⅰ型B	文科Ⅱ型	理科型		
1	国語総合	1	現代文B	現代文B	1	現代文B		現代文B	1	
2		2	現代文B	現代文B	2	現代文B		現代文B	2	
3		3	古典B	古典B	3	古典B	古典B	古典B	3	
4		4			4				4	4
5		5			5				5	5
6	現代社会	6	世界史B	世界史A	6	世界史研究 日本史研究 地理研究	世界史研究 日本史研究 地理研究	地理B	6	
7		7		7	7				7	
8	数学Ⅰ	8	日本史B 地理B	地理B	8	倫理 政治経済	政治経済	数学Ⅲ 発展数学	8	
9		9		9	9					
10		10		10	10				10	
11	数学A	11	数学Ⅱ	数学Ⅱ	11	政治経済	政治経済	数学Ⅲ 発展数学	11	
12		12			12				12	
13	数学Ⅱ	13	数学Ⅱ	13	13	13	13	13		
14	化学基礎	14	数学B	数学B	14	数学演習A	数学演習A	物理 生物	14	
15		15			15				15	
16	体育	16	生物基礎	物理基礎	16	数学演習B 英語研究	音楽研究 美術研究 書道研究 子どもの発達と保育 スポーツⅡ フードデザイン	物理 生物	16	
17		17			17				17	
18		18			18				18	
19	保健	19	地学基礎	生物基礎	19	生物基礎演習	音楽表現 美術表現 書道表現 英語研究	化学	19	
20	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	20			20				20	
21		21	21	21	21					
22	コミュニケーション英語Ⅰ	22	化学	化学	22	化学基礎演習 地学基礎演習	生物基礎演習	化学	22	
23		23			23				23	
24		24			24				24	24
25	英語表現Ⅰ	25	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ 家庭基礎演習	体育	25	コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅲ	コミュニケーション英語Ⅲ	25	
26		26			26				26	
27		27			27				27	
28	家庭基礎	28	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュニケーション英語Ⅱ	28	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	28	
29		29			29				29	
30	社会と情報	30	英語表現Ⅱ	英語表現Ⅱ	30	探究×進取	探究×進取	探究×進取	30	
31		31			31				31	
32	探究×節度	32	探究×友愛	探究×友愛	32	LHR	LHR	LHR	32	
33	LHR	33	LHR	LHR	33				33	

第1学年の「総合的な探究の時間」の名称は「探究×節度」とする。
 第2学年の「総合的な探究の時間」の名称は「探究×友愛」とする。
 第3学年の「総合的な探究の時間」の名称は「探究×進取」とする。

令和5年度 第3学年 評価および評定の基準について

各教科・科目の学習成績の評定については、原則として下の表を基準にして行います。

区 分	評 定	
	10段階	5段階
十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの	10/9	5
十分満足できると判断されるもの	8/7	4
おおむね満足できると判断されるもの	6/5	3
努力を要すると判断されるもの	4/3	2
努力を要すると判断されるもののうち、特に低い程度のもの(不可)	2/1	1

※なお、評定については、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」の観点による評価を踏まえて行います。これらの観点は各教科・科目によって変わります。詳細については、シラバスを参照してください。

○評定段階の基準については、100点法により各評定の基準を次のように定めます。

(1)5段階の各評定に関する基準

段階	5	4	3	2	1
評価点	85以上	70以上	50以上	30以上	30未満

(2)10段階の各評定に関する基準

段階	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
評価点	90以上	85以上	80以上	70以上	60以上	50以上	40以上	30以上	30未満	

※評価の観点「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」における100点法の割合は各教科のシラバスで定めています。これらの観点は各教科・科目によって変わります。詳細については、シラバスを参照してください。

年間指導計画表

教科・科目	国語・現代文B	単位数	2単位
		学科・学年・学級	第3学年・全学級

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 三省堂 「精選現代文B 改訂版」[現 B 324] 副教材 桐原書店 「新版完全征服頻出現代文重要語700 三訂版」 副教材 数研出版 「改訂版 評論速読トレーニング1500」 副教材 浜島書店 「巻頭増補版 最新国語便覧」 *副教材 第一学習社 「新版 入試頻出漢字 データベース漢字マイスター 頻出漢字熟語3000」 *副教材 数研出版 「大学入学共通テスト実践演習 論理・文学編 改訂版」 *副教材 いいずな書店 「現代文長文記述問題集 読解力習得編1 改訂版」 (無印は継続。*は新規)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	提出物・授業態度	17%
b. 話す・聞く能力	・目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	提出物・スピーチ・話し合い等・授業態度	17%
c. 書く能力	・必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	定期考査・提出物	21%
d. 読む能力	・近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	定期考査	21%
e. 知識・理解	・言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	定期考査・小テスト	24%

3 学習計画

学 期	月	時 数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
第1学期	4	5	【評論】『身体〈の〉疎外』(黒崎政男) 「精神」と「身体」の関わり方の変遷を時代毎に捉え、現代がどういう時代なのか理解を深める。	○文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図を捉えようとする。 ○文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図を捉えている。 ○文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	○		○	○	
	5	2	【小説】『鞆』(安部公房) 「鞆」に対する「私」の考え方の変化を読み味わう。	○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。 ○文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合おうとする。 ○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わっている。 ○国語における言葉の成り立ち、表現の特色及び言語の役割などを理解している。	○	○		○	○
	6	8	【評論】『日本文化の雑種性』(加藤周一) 日本文化の雑種性とその積極的意味について考える。	○読むことを通して、筆者の論理展開の仕方を把握しようとする態度を身につける。 ○文章を読んで関心をもった事柄について課題を設定し、資料を調べ、その成果をまとめて発表しようとする。 ○論理展開を捉えるための文章構成について理解する。 ○文章の構成の仕方を理解する。	○	○	○	○	○
	7	4	【評論】『戦争の〈不可能性〉』(西谷修) 世界大戦終戦後の、国家や民族の主体性の喪失という筆者の状況認識を理解する。	○文章の構成や展開、例示などの論証の工夫を理解しようとする。 ○「指示語」や逆説的表現など、筆者独特の表現の意味を文脈に沿って理解している。 ○「戦争の世界化」「戦争の不可能性」「冷戦構造」「代理戦争」などのキーワードの概念を理解する。	○	○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
第2学期	8 9	3 8	【小説】『舞姫』(森鷗外) 描かれた時代背景と〈手記〉という形式に留意しながら、出来事の変遷と登場人物の心情の変化を読み取る。	○小説の世界を、想像力豊かに読み味わおうとする態度を身につける。 ○文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合おうとする。 ○叙述に即して人物の心情を読み取る。 ○近代の文章や文学の変遷を理解する。	○				
	10	6	【評論】『忘れられる権利』(宮下紘) 「個人情報の保護」に関する立場の違いを理解し、「忘れられる権利」について自分の意見を持つ。	○文章の内容を叙述に即して的確に読み取ろうとする。 ○文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりしようとする。 ○内容を叙述に即して的確に読み取っている。 ○文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。	○	○	○		
	11 12	9 7	【副教材】「大学入学共通テスト実践演習論理・文学編」(数研出版)を用いた問題演習	○問題文の評論や小説を読解し、決められた時間内に正確に解答する技術を身につける。 ○記述問題に対応できる能力を身につける。				○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	e
第3学期	1 2	7 3	【副教材】「大学入学共通テスト実践演習論理・文学編」(数研出版)を用いた問題演習	○問題文の評論や小説を読解し、決められた時間内に正確に解答する技術を身につける。 ○記述問題に対応できる能力を身につける。				○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

<p>「現代文B」は、言葉を通して社会を見つめ、伝え合う力を高めて、主体的に生きる力を身につけることを目的としています。互いの考えを尊重しながら、高め合う姿勢で授業に臨んでください。</p> <p>○前日までに意味調べや本文を読むなどの予習を行い、小テストの学習をして授業に臨んでください。</p> <p>○授業中は、積極的に授業に取り組み、ノートはもちろん、与えられた課題に真摯に取り組んでください。</p> <p>○授業の内容に関して疑問に思ったこと、わからなかったことは積極的に質問しましょう。授業時間以外に質問に来てもかまいません。</p> <p>○学んだことを定着させるには、復習が肝要です。教科書やノート等で学習内容を整理・確認しましょう。</p> <p>○週末課題の問題集は指示を守って真摯に取り組む、期限内に提出してください。未提出や不備のものは指導します。</p> <p>○現代文を理解したり、話し合ったり、文章を書いたりするためには、歴史や社会についての知識・理解が不可欠です。日ごろから新聞や雑誌を読み、情報を収集・整理しておきましょう。</p>

年間指導計画表

教科・科目	古典B（文型）	単位数	3単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	教科書 三省堂「精選古典B（改訂版）」[古B 335] 副教材 いいずな書店「Key&Point みるみる覚える古文単語300+敬語30 改訂版」 副教材 桐原書店「基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版」（同・チェックノート） 副教材 尚文出版「完全傍訳やさしくくわしい古典文法 三訂版」（同・文法ノート） 副教材 浜島書店「巻頭増補版 最新国語便覧」 *副教材 尚文出版「共通テスト対策 古典完答24」 *副教材 数研出版「大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編 改訂版」 （無印は継続。*は新規。）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート 週末課題等	29%
b. 読む能力	・古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	定期考査 小テスト等	34%
c. 知識・理解	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め知識を身に付けている。	定期考査 小テスト等	37%

3 学習計画

学 期	月	時 数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第1学期	4	9	【日記】 『和泉式部日記』 （和泉式部） 「夢よりもはかなき世の中を」	○人間に対する思想や感情を的確にとらえようとしている。 ○文章の展開をおさえ、作者の心情を読み取ることができる。 ○和歌の修辞法、贈答歌の作法などを理解している。	○	○	○
	5	9	【評論】 『去来抄』（松尾芭蕉） 「行く春を」「岩鼻や」	○短詩形文学の俳諧について興味関心を持つようとしている。 ○発言者それぞれの意見を理解し、比較するおもしろさを味わう。 ○俳諧における表現上の技巧や工夫について理解する。	○	○	○
	6	11	【文章】 『唐宋八大家文読本』 （柳宗元） 「捕蛇者説」	○登場人物（捕蛇者）の心情と話の主題を理解しようとしている。 ○登場人物の主張から、自分の意見を持つことができる。 ○語句や句法に注意しながら適切な口語訳にすることができる。	○	○	○
	7	9	【日記】 『蜻蛉日記』 （菅原孝標女） 「うつろひたる菊」	○表現の特色を理解して読み味わい、内容を考察しようとしている。 ○人間関係を把握し、場面ごとの人物の心情を読み取ることができる。 ○敬語に注意しながら、適切な訳を作ることができる。	○	○	○
			【史伝（二）】 『史記』 （司馬遷） 「刎頸之交」	○著名な逸話について興味を持ち、考え方を広げようとしている。 ○話の展開を理解し、登場人物の心情を読み取ることができる。 ○訓読のきまりに沿って適切な訳を作ることができる。	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第2学期	8	4	【随筆】 『枕草子』 (清少納言) 「二月つごもりころに」	○筆者の観察眼や感性の鋭さ、また当時の知的な宮中文化に興味関心を持つ。 ○筆者の機知に富んだやりとりが自身にどのような意味を持つのか理解できる。 ○敬語について説明し、語法に忠実な訳を作ることができる。	○		
	9	12				○	
	10	12					○
	11	11	【問題演習】 「共通テスト国語対策問題集」	○様々な文章にふれ、古典に対する造詣を深めようとしている。 ○本文に則して、内容を的確にとらえることができる。 ○語句の意味・用法および文の構造を理解している。	○		
	12	9				○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第3学期	1	10	【問題演習】 「共通テスト国語対策問題集」	○様々な文章にふれ、古典に対する造詣を深めようとしている。 ○本文に則して、内容を的確にとらえることができる。 ○語句の意味・用法および文の構造を理解している。	○		
	2	9				○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

【授業で扱う教材について】

- 教材に関しては、原則として理科型と同じものを扱う予定です。単位数が異なることを考慮し、取り扱いには軽重をつけます。
- 文科型は、実践的な内容のみならず文学的な読みの深まりを目指します。

【成績・評価について】

- 成績の3～4割程度は、考査以外の部分（提出物・小テスト・授業態度など）で評価されます。
- ・提出物…提出締切を厳守すること。締切後に提出されたものは、原則として評価外となります。
- ・小テスト…「小テストのための小テスト」にならないようにしましょう。テスト前のみ学習するようでは短期的な記憶に止まってしまい、皆さんにとって必要な模試・入試などに应用在り得ません。小テストの学習は、日々の学習のルーティンの中に取り込んでいくことが重要です。
- ・授業態度…同じ授業は2度と受けることができません。一期一会の精神で、一時間一時間を大切にしましょう。

【授業では何をすればよいか】

- 予習…現代語訳をすることが予習だと思いませんか？予習の目的は「自分が、何が分からないか」を明確にすることで。
- 授業…予習で得た疑問を解決するのが授業です。板書を写してきれいなノートを作るのが、授業の目的ではありません。
- 復習…最も効果的な復習のタイミングは、「授業があった日の夜」です。記憶が消えかかった時に再度確認することで、知識は定着します。週末の5時間よりも当日の30分のほうがはるかに価値があります。

【授業外に何をすればよいか】

- ①古文単語、②文法知識、③古典常識。これが古典読解のための3本柱です（漢文の場合はこれに句法知識が加わります）。問題が解けない場合、この①～③に課題がある場合がほとんどです。予復習や問題演習を行うときには、これらのうち何が分からないのか、常に考えながら取り組みましょう。分からないことを自覚し、その場所を把握すること。それが学びの羅針盤になります。
- 3年生は、模擬試験を受ける機会も多くなります。受験後には詳細な解説が配付されますので、これをしっかり読み込むことが重要です。間違いを認識し、その理由を確認することで以降の改善に繋がります。週末課題についても同様に、解説書の読み込みに時間をかけましょう。

【なぜ古典を学ぶのか】

皆さんの中には「古典は受験科目ではないから学習しなくていい」という人もいるでしょう。また「この国際化時代に、古典なんて不要だ」と感じている人もいるかもしれません。古典の学習について、昔から言われてきた疑問です。古典は、何のために学習するのでしょうか？

高校生である皆さんは、色々なことについて「自分の考え」を持っていることでしょう。人間関係、恋愛、自然、時間、生と死、ありとあらゆる価値観。しかし、その中で「自分で作り上げた考え」はどれくらいあるのでしょうか。ほとんどすべての思いや考え方は「自分のオリジナル」ではなく、何かの影響を受けているはずで。

自分が属する文化と無縁で生きていられる人は、この世に存在しません。それはつまり、あらゆる「自分の考え」の中に、私たちの生活や歴史や祖先が、日本という「文化」が関わっているということです。そして、その文化は、数百年の時をかけて創り上げられてきたものです。数百年の歴史を持つ文化を学び、理解するという。それは現在の自分と社会を知り、未来に考えをはせることにつながります。皆さんが古典を読む意味、価値はそこにあります。

国際化社会が声高に叫ばれる時代だからこそ、自国の歴史や文化についてしっかりとした考えを語ることが重要です。外国語が操れても、自分のルーツや自国の文化について語るべきものを持たない人は、真の意味での国際人と言えないのではないでしょうか。

地に足をつけて将来を生きるために、また単なる教養としても古典の学習は必要です。その意味で、入試での要不要などたいた問題ではないのです。

年間指導計画表

教科・科目	古典B（理型）	単位数	2単位
		学科・学年・学級	第3学年・理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。
使用教科書・副教材等	<p>教科書 三省堂「精選古典B（改訂版）」[古B 335]</p> <p>副教材 いいずな書店「Key&Point みるみる覚える古文単語3000+敬語30 改訂版」</p> <p>副教材 桐原書店「基礎から解釈へ 漢文必携 四訂版」（同・チェックノート）</p> <p>副教材 尚文出版「完全傍訳やさしくくわしい古典文法 三訂版」（同・文法ノート）</p> <p>副教材 浜島書店「巻頭増補版 最新国語便覧」</p> <p>*副教材 尚文出版「共通テスト対策 古典完答24」</p> <p>*副教材 数研出版「大学入学共通テスト実践演習 古文・漢文編 改訂版」（無印は継続。*は新規。）</p>

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	・古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	ノート 週末課題等	29%
b. 読む能力	・古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	定期考査 小テスト等	34%
c. 知識・理解	・伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め知識を身に付けている。	定期考査 小テスト等	37%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第1学期	4	6	<p>【日記】</p> <p>『和泉式部日記』 （和泉式部） 「夢よりもはかなき世の中を」</p>	<p>○人間に対する思想や感情を的確にとらえようとしている。</p> <p>○文章の展開をおさえ、作者の心情を読み取ることができる。</p> <p>○和歌の修辞法、贈答歌の作法などを理解している。</p>	○	○	○
	5	6	<p>【評論】</p> <p>『去来抄』（松尾芭蕉） 「行く春を」「岩鼻や」</p>	<p>○短詩形文学の俳諧について興味関心を持つようとしている。</p> <p>○発言者それぞれの意見を理解し、比較するおもしろさを味わう。</p> <p>○俳諧における表現上の技巧や工夫について理解する。</p>	○	○	○
	6	8	<p>【文章】</p> <p>『唐宋八大家文読本』 （柳宗元） 「捕蛇者説」</p>	<p>○登場人物（捕蛇者）の心情と話の主題を理解しようとしている。</p> <p>○登場人物の主張から、自分の意見を持つことができる。</p> <p>○語句や句法に注意しながら適切な口語訳にすることができる。</p>	○	○	○
	7	6	<p>【日記】</p> <p>『蜻蛉日記』 （菅原孝標女） 「うつろひたる菊」</p>	<p>○表現の特色を理解して読み味わい、内容を考察しようとしている。</p> <p>○人間関係を把握し、場面ごとの人物の心情を読み取ることができる。</p> <p>○敬語に注意しながら、適切な訳を作ることができる。</p>	○	○	○
			<p>【史伝（二）】</p> <p>『史記』 （司馬遷） 「刎頸之交」</p>	<p>○著名な逸話について興味を持ち、考え方を広げようとしている。</p> <p>○話の展開を理解し、登場人物の心情を読み取ることができる。</p> <p>○訓読のきまりに沿って適切な訳を作ることができる。</p>	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第2学期	8	2	【随筆】 『枕草子』 (清少納言) 「二月つごもりころに」	○筆者の観察眼や感性の鋭さ、また当時の知的な宮中文化に興味関心を持つ。 ○筆者の機知に富んだやりとりが自身にどのような意味を持つのか理解できる。 ○敬語について説明し、語法に忠実な訳を作ることができる。 ○様々な文章にふれ、古典に対する造詣を深めようとしている。 ○本文に則して、内容を的確にとらえることができる。 ○語句の意味・用法および文の構造を理解している。	○		
	9	8				○	
	10	8					
	11	8	【問題演習】 「共通テスト国語対策問題集」		○		
	12	6				○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点		
					a	b	c
第3学期	1	6	【問題演習】 「共通テスト国語対策問題集」	○様々な文章にふれ、古典に対する造詣を深めようとしている。 ○本文に則して、内容を的確にとらえることができる。 ○語句の意味・用法および文の構造を理解している。	○		
	2	6				○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

【授業で扱う教材について】

- 教材に関しては、原則として文科型と同じものを扱う予定です。単位数が異なることを考慮し、取り扱いには軽重をつけます。
- 理科型は、実践的な内容に主眼をおいて展開します。

【成績・評価について】

- 成績の3～4割程度は、考査以外の部分（提出物・小テスト・授業態度など）で評価されます。
- ・提出物…提出締切を厳守すること。締切後に提出されたものは、原則として評価外となります。
- ・小テスト…「小テストのための小テスト」にならないようにしましょう。テスト前のみ学習するようでは短期的な記憶に止まってしまい、皆さんにとって必要な模試・入試などに应用在り得ません。小テストの学習は、日々の学習のルーティンの中に取り込んでいくことが重要です。
- ・授業態度…同じ授業は2度と受けることができません。一期一会の精神で、一時間一時間を大切にしましょう。

【授業では何をすればよいか】

- 予習…現代語訳をすることが予習だと思いませんか？予習の目的は「自分が、何が分からないか」を明確にすることです。
- 授業…予習で得た疑問を解決するのが授業です。板書を写してきれいなノートを作るのが、授業の目的ではありません。
- 復習…最も効果的な復習のタイミングは、「授業があった日の夜」です。記憶が消えかかった時に再度確認することで、知識は定着します。週末の5時間よりも当日の30分のほうがはるかに価値があります。

【授業外に何をすればよいか】

- ①古文単語、②文法知識、③古典常識。これが古典読解のための3本柱です（漢文の場合はこれに句法知識が加わります）。問題が解けない場合、この①～③に課題がある場合がほとんどです。予復習や問題演習を行うときには、これらのうち何が分からないのか、常に考えながら取り組みましょう。分からないことを自覚し、その場所を把握すること。それが学びの羅針盤になります。
- 3年生は、模擬試験を受ける機会も多くなります。受験後には詳細な解説が配付されますので、これをしっかり読み込むことが重要です。間違いを認識し、その理由を確認することで以降の改善に繋がります。週末課題についても同様に、解説書の読み込みに時間をかけましょう。

【なぜ古典を学ぶのか】

皆さんの中には「古典は受験科目ではないから学習しなくていい」という人もいるでしょう。また「この国際化時代に、古典なんて不要だ」と感じている人もいるかもしれません。古典の学習について、昔から言われてきた疑問です。古典は、何のために学習するのでしょうか？

高校生である皆さんは、色々なことについて「自分の考え」を持っていることでしょう。人間関係、恋愛、自然、時間、生と死、ありとあらゆる価値観。しかし、その中で「自分で作り上げた考え」はどれくらいあるのでしょうか。ほとんどすべての思いや考え方は「自分のオリジナル」ではなく、何かの影響を受けているはずで

自分が属する文化と無縁で生きていられる人は、この世に存在しません。それはつまり、あらゆる「自分の考え」の中に、私たちの生活や歴史や祖先が、日本という「文化」が関わっているということです。そして、その文化は、数百年の時をかけて創り上げられてきたものです。数百年の歴史を持つ文化を学び、理解するという。それは現在の自分と社会を知り、未来に考えをはせることにつながります。皆さんが古典を読む意味、価値はそこにあります。

国際化社会が声高に叫ばれる時代だからこそ、自国の歴史や文化についてしっかりとした考えを語れることが重要です。外国語が操れても、自分のルーツや自国の文化について語るべきものを持たない人は、真の意味での国際人と言えないのではないでしょうか。

地に足をつけて将来を生きるために、また単なる教養としても古典の学習は必要です。その意味で、入試での要不要などたいた問題ではないのです。

年間指導計画表

教科・科目	地歴・世界史研究	単位数	4単位
		学科・学年・学級	3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	『詳説世界史B』（山川出版社）『最新世界史図説タペストリー』（帝国書院）『世界史重要語句 Check List』（啓隆社）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	世界の歴史的事象に対する関心と問題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	ワークシート、観察	17%
b. 思考・判断・表現	世界の歴史的事象から課題を見だし、それを時代背景、宗教、文化、地理的要素といった多面的な角度から考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	ワークシート、観察、レポート、発表	21%
c. 技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	ワークシート、定期考査、小テスト	21%
d. 知識・理解	世界の歴史的事象について、基本的事項や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	ワークシート、定期考査、小テスト	41%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	11	・近世ヨーロッパ世界の形成	○年代や用語の暗記に留まらず、それぞれの歴史的 事象の背景を踏まえ、原因・結果その意義を考察 するとともに、現代の世界のあり方との繋がりを 模索する。		○		○
	5	15	・近世ヨーロッパ世界の展開	○資料や年表をもとに、欧米で発生した革命の思想 や流れを整理し、その意義について考える。	○		○	
	6	17	・近代ヨーロッパ世界の成立					
	7	12	・欧米における近代国民国家の発展	○自由主義やナショナリズム、国民国家といった概 念を理解し、それらを世界史という大きな文脈の なかでどのように位置づけるべきか考える。		○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	5	・アジア諸地域の動揺	○年代や用語の暗記に留まらず、それぞれの歴史的事象の背景を踏まえ、原因・結果その意義を考察するとともに、現代の世界のあり方との繋がりを模索する。	○			○
	9	17	・帝国主義とアジアの民族運動	○帝国主義に乗り出した列強諸国の政策と内情を整理する。そのうえで、アジア諸国の動揺や民族運動について理解し、その中での日本の立ち位置をあらためて考える。	○			○
	10	13	・二つの世界大戦	○ヨーロッパを中心とするアジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の視点から意欲的に追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察し、その結果を適切に表現する。		○	○	
	11	17	・冷戦と第三世界の自立	○二つの世界大戦へと向かう国際関係を理解し、それぞれの戦争が起こった背景と、日本が参戦した要因を探る。そのうえで、現代の世界の国際的な諸問題を理解し、日本国民としての意見をもつ。	○	○		
	12	13	・現代の世界	○現代社会の特質や課題に関する資料を収集・選択・活用するとともに、探究した成果を論述したり、討論したりする。		○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	13	・発展的学習活動	○空間軸や時間軸を問う問題、テーマ史の演習を通し、世界史を包括的・多面的に理解する。			○	○
	2	7	・世界史の探究	○各自がテーマと方法を設定し調査を行う。世界史の学習で得た体系とそのテーマの交錯点を見出し位置付けることで大学での学問や生涯学習の方法の手立てを得る。	○		○	
	3	0						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- ①授業に集中して、積極的に取り組んでください。
- ②授業中の作業や課題は丁寧にやり遂げてください。
- ③事柄を機械的に暗記しようとするのではなく、きちんと理解することを意識してください。
- ④今日の世界と歴史的な事項がどのように関わっているのか想像力を働かせてみてください。

年間指導計画表

教科・科目	地歴・日本史研究	単位数	4単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	我が国の歴史を、近代以降の世界史の大きな枠組みと流れに関連づけながら理解し、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
使用教科書・副教材等	『詳説日本史B』（山川出版社）『詳録 新日本史史料集成』（第一学習社） 『図説日本史通覧』（帝国書院）『新日本史研究ノート〔標準編〕』（啓隆社）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日本史の学習を暗記ではなく、歴史的事実や現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究する態度を身につける努力をしている。	授業プリント、観察、問題プリント、	22%
b. 思考・判断・表現	歴史の事象や歴史の構造に問題を見だし、分析したり、総合的に考えたり、論理的、科学的、に思考したりできる。また、それを表現することができる。	授業プリント、観察、問題プリント、定期考査	24%
c. 技 能	日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	授業プリント、観察、問題プリント、定期考査	20%
d. 知識・理解	日本の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。	授業プリント、観察、問題プリント、定期考査	34%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	15	戦国大名の登場 織豊政権 桃山文化	戦国大名の登場、西欧文化との接触、織豊政権による戦国時代の統一、関が原、大坂の役を経て確立した幕藩体制の構造を理解する。		○		○
	5	15	幕藩体制の成立 幕藩体制の構造	幕政の安定とその背景の諸産業の発展をまなび、上方町人による元禄文化を理解する。	○			○
	6	20	幕政の安定 経済の発展 元禄文化		○		○	
	7	15	幕政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	幕藩体制の矛盾解決のための「三大改革」の成果と課題を、江戸を中心とした産業・文化の発展と関連づけて理解する。		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	5	開国と幕末の動乱	開国の世界史的意味を考えた上で、アジアで最初の立憲国家となった日本について、様々な角度から考察する。 世界史の表面に大きく日本が登場する日露戦争後から日本の経済不況解決のためのさまざまな努力と不幸な第二次世界大戦にいたる経緯を多角度から考察する。 戦後の民主化と日本の復興を、世界情勢をふまえて理解する。 日本の国際社会復帰と高度経済成長について考察する。 日本のさまざまな課題について考察する	○			○
	9	15	明治維新と富国強兵 立憲国家の成立と日清戦争			○	○	
	10	20	日露戦争と国際関係 近代産業の発展 近代文化の発達		○			○
	11	20	第一次世界大戦と日本 ワシントン体制 市民生活の変容と大衆文化 恐慌の時代 軍部の台頭			○		○
	12	15	第二次世界大戦 占領と改革 冷戦の開始と講和 55年体制 経済復興から高度成長へ 経済大国への道			○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	15	全分野の総復習及び問題演習	全分野の総復習をおこない、歴史的事象やその相互関連、歴史の流れの理解を深め、知識の定着を図る。			○	○
	2	15	日本史学習のまとめ	各自で興味のある時代・分野・人物を選び出し、適切な方法を用いて調査・研究を行う。	○	○		

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- ①授業までに教科書を読み、自分なりにノートを作るという予習を課すことがあります。これは、自分なりにまとめるなかで分からない箇所を見つけることで、自分なりの問いをもって授業に参加するためです。
- ②語句や人物をひたすら暗記することが歴史学習ではありません。歴史的なできごとの因果関係、背景と影響、類似と差異、歴史的意義をしっかりと考えながら教科書を読み込みましょう。

年間指導計画表

教科・科目	地歴・地理研究	単位数	4単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解し、現代世界を地誌的に考察する方法を身につける。
使用教科書・副教材等	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) フォトグラフィア地理図説(とうほう) 新詳地理Bノート(帝国書院)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責務を果たそうとする。	授業出席、 ノート、観察	12%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	ノート(探究課題) 定期考査	21%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	地図・統計資料のワークシート	21%
d. 知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート	46%

3 学習計画

学 期	月	時 数	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	11	第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	○自然、歴史、文化、民族、産業などに見られる地域的特色や地域的課題という多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。(地誌共通) ○オーストラリアと日本との関係を多角的に理解する。 ○多民族国家アメリカの背景を理解する。 ○世界におけるアメリカ合衆国の影響力を理解する。 ○イスラム教圏の特徴を理解する。 ○インドが新興国として経済発展する要因と背景を理解する。	○	○	○	○
	5	15	・オセアニア		○			
	6	17	・アングロアメリカ		○		○	
	7	12	・西アジアと中央アジア、南アジア		○			○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	5	・ヨーロッパ	○ヨーロッパ統合の目的・背景を理解する。 ○EUの課題を考える。		○		○
	9	17	・東南アジア	○ASEANの多様性と、経済発展の要因を理解する。				○
	10	13	・東アジア	○中国を多様な視点から理解しその課題を考える。 ○中国と日本との関係を考える。		○	○	
	11	17	・アフリカ	○アフリカの現状と課題を理解する。	○			○
	12	13	・ラテンアメリカ	○ラテンアメリカの人種・民族の多様性と地域の特徴を系統的に理解する。 ○ブラジル経済発展の背景を理解する。	○			○
			全分野の総復習及び発展的学習	○問題演習を通して、これまでの学習内容の復習を行い、基本的事項の定着を図る。		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	13	全分野の総復習及び発展的学習	○問題演習を通して、これまでの学習内容の復習を行い、基本的事項の定着を図る。		○		○
	2	7	地域研究	○世界や日本の特定地域を取り上げ、これまでの学習を基に地域の特徴を理解する。	○			

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

地理は現実世界で起こっていることが学ぶべき対象になる。自然・産業・生活・地球的な諸課題は相互に関係があるので、広い視野から理解することを心がけてほしい。日頃からテレビや新聞等を通して、世界で起きている事柄に関心をもつことは地理の学習をさらに深め、現在の私たちの生活、さらには世界を理解することの一助となる。入試に必要な・不必要という目の前の必要性ではなく、将来、社会に出たときに必要な知識と教養を身につける意義を意識して学んでほしい。

年間指導計画表

教科・科目	地歴・地理B	単位数	4単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解し、現代世界を地誌的に考察する方法を身につける。
使用教科書・副教材等	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) フォトグラフィア地理図説(とうほう) 新詳地理Bノート(帝国書院)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責務を果たそうとする。	授業出席、 ノート、観察	12%
b. 思考・判断・表現	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	ノート(探究課題) 定期考査	21%
c. 技能	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめている。	地図・統計資料のワークシート	21%
d. 知識・理解	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身につけている。	定期考査 ノート	46%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	11	第Ⅱ部 系統地理的考察 3章村落・都市 ・村落と都市の立地、機能 ・都市問題 第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察	○歴史的背景や地形と関連づけて集落立地、機能を理解する。 ○人間生活と関連づけて都市問題を考える。	○		○	○
	5	15	・オセアニア	○自然、歴史、文化、民族、産業などに見られる地域的特色や地域の課題という多様な事象を項目ごとに整理して、静態的に考察する。(地誌共通)	○	○		○
	6	17	・アングロアメリカ	○オーストラリアと日本との関係を多角的に理解する。	○			○
	7	12	・西アジアと中央アジア、南アジア	○世界におけるアメリカ合衆国の影響力を理解する。 ○インドが新興国として経済発展する要因と背景を理解する。				○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	5	・ヨーロッパ	○ヨーロッパ統合の目的と背景を理解し、その課題を考える。		○		
	9	17	・東南アジア	○ASEANの多様性と、経済発展の要因を理解する。				○
	10	13	・東アジア	○中国を多様な視点から理解しその課題を考える。		○		
	11	17	・アフリカ	○アフリカの現状と課題を理解する。	○			
	12	13	・ラテンアメリカ	○ラテンアメリカの人種○民族の多様性と地域の特徴を系統的に理解する。	○			
			全分野の総復習及び発展的学習	○問題演習を通して、これまでの学習内容の復習を行い、基本的事項の定着を図る。		○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	13	全分野の総復習及び発展的学習	○問題演習を通して、これまでの学習内容の復習を行い、基本的事項の定着を図る。		○		○
	2	7	地域研究	○世界や日本の特定地域を取り上げ、これまでの学習を基に地域の特徴を理解する。	○			

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

地理は現実世界で起こっていることが学ぶべき対象になる。自然・産業・生活・地球的な諸課題は相互に関係があるので、広い視野から理解することを心がけてほしい。日頃からテレビや新聞等を通して、世界で起きている事柄に関心をもつことは地理の学習をさらに深め、現在の私たちの生活、さらには世界を理解することの一助となる。入試に必要・不必要という目の前の必要性ではなく、将来、社会に出たときに必要な知識と教養を身につける意義を意識して学んでほしい。

年間指導計画表

教科・科目	公民・倫理	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	先哲の思想を道標としながら、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探究し、生徒自身の世界観・人生観を形成する。
使用教科書・副教材等	高校倫理 新訂版（実教出版）・高校倫理 新訂版 演習ノート（実教出版） ・最新図説倫理（浜島書店）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	哲学、思想、倫理観などについて関心を高め、意欲的にその内容を探究し、自らのあり方・生き方について自覚を深めようとする。	授業観察 ノート	19%
b. 思考・判断・表現	哲学、思想、倫理観などについて広い角度から考察するとともに、社会変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断する。	授業観察 ノート	23%
c. 技能	哲学、思想、倫理観などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、考察した結果を様々な方法で適切に表現する。	授業観察 ノート、定期 考査	19%
d. 知識・理解	哲学、思想、倫理観などあり方・生き方にかかわる事項や学び方を理解し、その知識を身につけている。	授業観察 ノート、定期 考査	39%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	6	青年期の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・心理学の学習を通して自分や他者の心の働きを知り、自己理解を深める。 ・ソクラテス・イエス・仏陀・孔子・老子等の思想を学ぶことを通して、独りよがりではないものの考え方、普遍的真理についての思索の基礎を理解する。 ・現代にもつながる古代日本人の思想の基盤を学習し、仏教が日本に伝えられ拡大していった経緯を理解する。 	○	○		○
	5	6	ギリシャ思想		○		○	○
	6	8	キリスト教 イスラーム教 仏教					
	7	6	諸子百家 日本古代の思想		○		○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	2	鎌倉仏教	○外来思想である仏教○儒学が日本で独自の発展をしたことを理解する。 ○明治以後、西洋思想が入ってくる中で、西洋の合理思想を取り込みながらも日本的な思想が発展したことを理解する。 ○デカルト○ベーコン○カント○ヘーゲル等の思想を通して西洋人の合理的思索の基礎を理解する。 ○ドイツ観念論以降の思想が現代にどのような影響を与えているか理解し、これからどう生きていくか考えさせる。	○	○	○	
	9	8	江戸の学問 明治以後の日本の思想		○	○		○
	10	8	近代西洋思想の基礎		○		○	○
	11	8	ドイツ観念論 社会主義		○		○	○
	12	6	実存主義 現代の思想		○		○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	6	思想史の総復習と問題演習	○学習事項を定着させる。 ○自分でテーマを決めて研究をする。			○	○
	2	6	課題研究		○	○	○	

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

単にテストで点を取るためだけでなく、自分のより良い生き方を見いだすために学習してほしい。

年間指導計画表

教科・科目	公民・政治経済（2単位）	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「政治・経済」（東京書籍） 「最新 政治経済資料集 2020」（第一学習社） 「要点マスター政治・経済 演習ノート」（東京書籍）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	政治・経済について関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的な事象を総合的に考察し、より良い社会の実現にむけて参加・協力する態度を身につける。	授業観察 ノート ワークシート	18%
b. 思考・判断・表現	政治・経済に関する社会事象について、多角的な観点から考察し、多様な立場・考え方を踏まえて公正に判断する。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	28%
c. 技能	政治・経済に関する社会事象の資料を、様々なメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	17%
d. 知識・理解	政治・経済の内容についての理解を深め、その知識を身につけている。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	37%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
第1学期	4	6	第2章 現代の経済 (1) 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容	○資本主義経済が歴史的経緯を経て成立したことを学ぶ。 ○資本主義経済の特徴を社会主義経済の特徴と比較しながら考察し、現代経済の特質について理解する。	○	○		○	
	5	6	(2) 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環 ②生産のしくみと企業	○経済主体間の結びつきを考えながら、経済循環について考察する。 ○株式会社とは何か、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について関心を高める。		○		○	
	6	8	③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能	○「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 ○国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。 ○金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。 ○財政の基本的なしくみや役割、租税の意義について理解しながら、その用途について関心を高める。	○	○	○	○	
	7	6	(3) 日本経済の発展と産業構造の変化 ①経済再建から高度成長へ ②オイルショック後の日本経済 ③日本経済の現状	○戦後復興期の諸改革や高度成長に至る経緯と背景を理解する。 ○石油危機後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し、バブル経済とその崩壊について考察する。 ○「構造改革」の特徴と影響、および世界金融危機後の日本経済の現状について考察する。	○	○	○	○	
						○	○	○	○
						○	○	○	○
						○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	2	(4) 福祉社会と日本経済の課題 ①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食糧問題	○公害の歴史と対策について学び、環境問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要か考察する。 ○消費者問題の背景や消費者主権の意義を理解し、消費者問題への関心を高める。 ○日本の農業の現状と課題を理解し、国際社会の中での日本の農業のあり方を考察する。	○	○	○	○
	9	8	④中小企業の現状と課題 ⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉	○大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。 ○労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義と問題点を理解するとともに、労働問題への関心を高める。 ○日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。	○	○	○	○
	10	8	5節 国民経済と国際経済 ①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済	○国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 ○為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 ○地域的経済統合やFTA・EPAについて関心をもち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 ○グローバル化とともにモノ、カネの国際的な移動が、南北問題をはじめ、国際経済に与える影響について、関心を高める。	○	○	○	○
	11	8	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ①国際政治の特質 ②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題	○国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 ○国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 ○第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し、冷戦終結後の国際社会の諸課題について考察する。	○	○	○	○
	12	6	④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源エネルギー問題 ⑦国際社会と日本の役割	○地球環境問題と資源エネルギー問題の現状を理解し、課題について考察、解決に向けて取り組む意欲を高める。 ○今日の国際社会における日本外交や日本の国際貢献についての課題を考察する。	○	○	○	○
				* 政治分野の総復習と問題演習 * 全分野の総復習と問題演習	○1年次に学習した政治分野の重要事項を復習したのち、問題演習を通して全分野の知識の定着を図るとともに、今日の政治の課題について考察を深める。	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	6	* 全分野の総復習と問題演習		○	○	○	
	2	6	* 課題研究	○今日の政治や経済に関する諸課題について、テーマを設定して解決策を提示する。	○	○	○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

政治経済という科目は、現代社会という科目に似ています。1年次に現代社会の授業で政治・経済の政治分野については履修を終えているので、3年次は教科書の後半部分の経済から入ります。社会科の知識は授業の中で覚えるのが一番です。授業に集中して学習してください。

年間指導計画表

教科・科目	公民・政治経済（4単位）	単位数	4単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	「政治・経済」（東京書籍） 「最新 政治経済資料集 2020」（第一学習社） 「要点マスター政治・経済 演習ノート」（東京書籍）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	政治・経済について関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的な事象を総合的に考察し、より良い社会の実現にむけて参加・協力する態度を身につける。	授業観察 ノート ワークシート	18%
b. 思考・判断・表現	政治・経済に関する社会事象について、多角的な観点から考察し、多様な立場・考え方を踏まえて公正に判断する。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	28%
c. 技能	政治・経済に関する社会事象の資料を、様々なメディアを通して収集し、役立つ情報を主体的に選択して活用するとともに、考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	17%
d. 知識・理解	政治・経済の内容についての理解を深め、その知識を身につけている。	授業観察 ノート 定期考査 ワークシート	37%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	12	第2章 現代の経済 (1) 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容	○資本主義経済が歴史的経緯を経て成立したことを学ぶ。 ○資本主義経済の特徴を社会主義経済の特徴と比較しながら考察し、現代経済の特質について理解する。	○	○		○
			(2) 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環	○経済主体間の結びつきを考えながら、経済循環について考察する。		○		○
	5	12	②生産のしくみと企業	○株式会社とは何か、所有と経営の両面から理解するとともに、企業の社会的責任について関心を高める。	○	○	○	○
			③市場経済の機能と限界	○「需要と供給との関係」について、正しく理解する。	○	○	○	○
			④国民所得と経済成長	○国民所得の構成や景気変動、経済成長について、諸資料を利用して、日本と諸外国の現状を比較する。	○	○	○	○
			⑤金融のしくみと機能	○金融のしくみや役割、日本銀行の金融政策、金融の自由化などの金融に関する環境の変化を理解する。	○	○	○	○
	6	16	⑥財政のしくみと機能	○財政の基本的なしくみや役割、租税の意義について理解しながら、その用途について関心を高める。	○	○	○	○
			(3) 日本経済の発展と産業構造の変化 ①経済再建から高度成長へ	○戦後復興期の諸改革や高度成長に至る経緯と背景を理解する。	○	○	○	○
	7	12	②オイルショック後の日本経済	○石油危機後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し、バブル経済とその崩壊について考察する。	○	○	○	○
			③日本経済の現状	○「構造改革」の特徴と影響、および世界金融危機後の日本経済の現状について考察する。	○	○	○	○
			(4) 福祉社会と日本経済の課題 ①公害と環境保全	○公害の歴史と対策について学び、環境問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要か考察する。		○	○	○
			②消費者問題	○消費者問題の背景や消費者主権の意義を理解し、消費者問題への関心を高める。	○	○	○	○
			③農業・食糧問題	○日本の農業の現状と課題を理解し、国際社会の中での日本の農業のあり方を考察する。	○	○	○	○
			④中小企業の現状と課題	○大企業と中小企業の違いや日本経済において中小企業が果たしている役割について理解する。		○	○	○

	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
学期	8	4	⑤雇用と労働問題 ⑥社会保障と福祉	○労働基本権と労働三法の基本的内容とその意義と問題点を理解するとともに、労働問題への関心を高める。 ○日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。	○	○	○	○
	9	16	5節 国民経済と国際経済 ①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済	○国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 ○為替相場のメカニズムについて把握しながら、円高・円安が国内の産業にどのように影響するか理解する。 ○地域的経済統合やF T A ・ E P Aについて関心をもち、諸資料を利用しながら具体的に考察する。 ○グローバル化とともになうヒト、モノ、カネの国際的な移動が、南北問題をはじめ、国際経済に与える影響について、関心を高める。	○	○	○	○
	10	16	第1章 現代の政治 5節 現代の国際政治 ①国際政治の特質 ②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源エネルギー問題 ⑦国際社会と日本の役割	○国際政治と国内政治の違いや、国際法や国際裁判の意義を理解する。 ○国際連盟と国際連合の違いを把握しながら、国際連合の役割、国際連合が抱えている課題について理解する。 ○第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し、冷戦終結後の国際社会の諸課題について考察する。 ○地球環境問題と資源エネルギー問題の現状を理解し、課題について考察、解決に向けて取り組む意欲を高める。 ○今日の国際社会における日本外交や日本の国際貢献についての課題を考察する。	○	○	○	○
	11	16	*政治分野の総復習	○1年次に学習した政治分野の重要事項を復習したのち、問題演習を通して全分野の知識の定着を図るとともに、今日の政治の課題について考察を深める。	○	○	○	○
	12	12	*全分野の総復習と問題演習		○	○	○	○
						○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	12	*全分野の総復習と問題演習			○	○	○
	2	12	*課題研究	○今日の政治や経済に関する諸課題について、テーマを設定して解決策を提示する。	○	○	○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

政治経済という科目は、現代社会という科目に似ています。1年次に現代社会の授業で政治・経済の政治分野については履修を終えているので、3年次は教科書の後半部分の経済から入ります。社会科の知識は授業の中で学ぶのが一番です。授業に集中して学習してください。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学Ⅲ	単位数	6単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 教科書傍用 クリアー数学Ⅲ (数研出版) 改訂版 チャート式 解法と演習数学Ⅲ (数研出版)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法に関心をもつとともに、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	提出物, 活動の観察, 出席	23%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における数学的な見方や考え方を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	25%
c. 数学的な技能	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	26%
d. 知識・理解	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	26%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
1 学期	4	16	数学Ⅲ 第1章 複素数平面	<ul style="list-style-type: none"> 複素数平面に関心を持ち、活用しようとする。 複素数平面における数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 複素数平面上に複素数を図示することができ、複素数の実数倍、和、差、積および商について、幾何学的に考察することができる。 複素数平面における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 	○	○	○	○
	5	23	数学Ⅲ 第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	<ul style="list-style-type: none"> 式と曲線に関心を持ち、活用しようとする。 式と曲線における数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 放物線、楕円、双曲線などの2次曲線や媒介変数表示の曲線の方程式を求めたり、接線の方程式を求めたり、グラフの概形を書いたりすることができる。 	○	○	○	○
	6	25	数学Ⅲ 第3章 関数	<ul style="list-style-type: none"> 式と曲線における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 分数関数などに関心を持ち、活用しようとする。 分数関数などにおける数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 分数関数などのグラフの概形がかけたり、方程式不等式を解いたりすることができる。簡単な場合の逆関数や合成関数を求めることができる。 分数関数などにおける基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 	○	○	○	○
	7	18	数学Ⅲ 第4章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	<ul style="list-style-type: none"> 極限に関心を持ち、活用しようとする。 極限における数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 簡単な数列や様々な関数値の極限を求めることができる。無限等比級数などの簡単な無限級数の収束・発散を求めることができる。 極限や関数の基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
第2学期	8	8	数学Ⅲ 第5章 微分法	<ul style="list-style-type: none"> ・微分法に関心を持ち、活用しようとする。 ・微分法における数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 ・和、差、積、商および合成関数、分数関数、無理関数、三角関数、指数関数および対数関数の導関数を導くことができる。 ・微分法における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 	○				
	9	25	第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数			○			
	10	19	数学Ⅲ 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 第2節 いろいろな応用数学Ⅲ		<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな関数の導関数の公式を基にして、接線の方程式を求めるとともに、関数値の増減、極大・極小やグラフの凹凸を調べグラフの概形をかき、考察することができる。 			○	
	11	26	第7章 積分法とその応用 第1節 不定積分 第2節 定積分 第3節 積分法の応用		<ul style="list-style-type: none"> ・積分法に関心を持ち、活用しようとする。 ・積分法における数学的な見方や考え方を身につけ、表現することができる。 ・様々な関数の不定積分を求め、置換積分法および部分積分法における簡単な場合の不定積分を求めることができる。いろいろな関数について、工夫して不定積分や定積分を求めることができる。 また、いろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積および曲線の長さなどを定積分を利用して求めることができる。 ・積分法における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。 	○	○	○	
	12	20	数学ⅠAⅡBの総合的演習	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、整数の性質、図形の性質、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、ベクトル、数列、式と曲線、複素数平面および極限の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 		○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	20	数学的な見方や考え方を育成する問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、整数の性質、図形の性質、いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、ベクトル、数列、式と曲線、複素数平面および極限の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、物事を多面的・発展的に考える力を育成する。 		○	○	
	2	10						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。

2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表

教科・科目	数学・発展数学	単位数	6単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学ⅠAⅡBについての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学Ⅰ (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版) 改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B 受験編 (数研出版)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAⅡBにおける考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	提出物, 活動の観察, 出席	23%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学ⅠAⅡBにおける数学的な見方や考え方を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	25%
c. 数学的な技能	数学ⅠAⅡBにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	26%
d. 知識・理解	数学ⅠAⅡBにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。	提出物, 小テスト, 定期考査	26%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	16	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 			○	○
	5	23	数学Aの総合的復習 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○
	6	25	数学Ⅱの総合的復習 第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式 第11章 三角関数 第12章 指数関数と対数関数 第13章 微分法と積分法	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○
	7	18	数学Bの総合的復習 第14章 ベクトル 第15章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、数列における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 ベクトル、数列に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
第2学期	8	8 25	数学Ⅰの総合的演習 第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 第4章 データの分析 数学Aの総合的演習 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質 数学Ⅱの総合的演習 第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式 第11章 三角関数 第12章 指数関数と対数関数 第13章 微分法と積分法 数学Bの総合的演習 第14章 ベクトル 第15章 数列	<ul style="list-style-type: none"> 数学ⅠAⅡBの各分野に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、活用して判断しようとする。 数学ⅠAⅡBの各分野の知識を習得し、それらを相互に関連づけて活用して物事を多面的、発展的に考える力を身につける。 	○	○			
	9								
	10				19			○	○
	11				26				
	12				20				

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	20	数学的な見方や考え方を育成する問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 数学ⅠAⅡBの各分野に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、活用して判断しようとする。 数学ⅠAⅡBの各分野の知識を習得し、それらを相互に関連づけて活用して物事を多面的、発展的に考える力を身につける。 	○	○		
	2	10					○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速さと正確さを兼ね備えた計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱ったような問題を解けるようになるだけでなく、初めて見るような問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解くことが必要です。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A	単位数	3単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科I型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学I Aについての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 キートレーニング数学演習I・A・II・B 受験編 (数研出版)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学I Aにおける考え方に興味をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ワークシート、振り返りシート、活動の観察、課題	23%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学I Aにおける数学的な見方や考え方を身につけている。	活動の観察、振り返りシート、小テスト、定期考査、課題	25%
c. 数学的な技能	数学I Aにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査、課題	26%
d. 知識・理解	数学I Aにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査、課題	26%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	8	数学Iの総合的復習 第1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 			○	○
	5	11	第2章 2次関数 第3章 図形と計量		○	○		
	6	13	第4章 データの分析					
	7	9	数学Aの総合的復習 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質				○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	4	数学Iの総合的演習	・数と式、2次関数、図形と計量、データの分析の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。		○	○	○
	9	13	第1章 数と式					
			第2章 2次関数					
			第3章 図形と計量					
	10	9	第4章 データの分析					
			数学Aの総合的演習	・場合の数、確率、整数の性質、図形の性質の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。		○	○	○
11	13	第5章 場合の数と確率						
		第6章 図形の性質						
	12	10	第7章 整数の性質					

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	10	数学的な見方や考え方を育成する問題演習	・数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、整数の性質、図形の性質の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、物事を多面的・発展的に考える力を育成する。		○	○	
	2	5						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速く正確な計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱った問題を解けるようにする。初めて出会った問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解いて基礎・基本を身につけることが大切です。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科Ⅱ型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学ⅠAについての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学Ⅰ (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 キートレーニング数学演習Ⅰ・A・Ⅱ・B 受験編 (数研出版)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学ⅠAにおける考え方に興味を持つとともに、数学の良さを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	ノート、ワークシート、振り返りシート、活動の観察	23%
b. 思考・判断・表現	数学ⅠAにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。	ノート、活動の観察、振り返りシート、小テスト、定期考査	25%
c. 技 能	数学ⅠAにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査	26%
d. 知識・理解	数学ⅠAにおける基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査	26%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	5	数学Ⅰの総合的復習 第1章 数と式	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 			○	○
	5	8	第2章 2次関数					
	6	8	第3章 図形と計量		○	○		
	6	8	第4章 データの分析					
	7	6	数学Aの総合的復習 第5章 場合の数と確率				○	○
	7	6	第6章 図形の性質					
	7	6	第7章 整数の性質		○	○		

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	数学Iの総合的演習	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 場合の数、確率、整数の性質、図形の性質の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 		○	○	○
	9	8	第1章 数と式					
			第2章 2次関数					
	10	6	第3章 図形と計量					
			第4章 データの分析					
	11	9	数学Aの総合的演習		○	○	○	
			第5章 場合の数と確率					
	12	7	第6章 図形の性質					
			第7章 整数の性質					

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	7	数学的な見方や考え方を育成する問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、整数の性質、図形の性質の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、物事を多面的・発展的に考える力を育成する。 		○	○	
	2	3						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速く正確な計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱った問題を解けるようにする。初めて出会った問題にも、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解いて基礎・基本を身につけることが大切です。

年間指導計画表

教科・科目	数学・数学演習A、数学演習B	単位数	5単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科I型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	数学I A II Bについての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂版 高等学校 数学I (数研出版) 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 改訂版 高等学校 数学II (数研出版) 改訂版 高等学校 数学B (数研出版) 改訂版 キートレーニング数学演習I・A・II・B 受験編 (数研出版)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	数学I A II Bにおける考え方に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	ノート、ワークシート、振り返りシート、活動の観察	23%
b. 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学I A II Bにおける数学的な見方や考え方を身につけている。	ノート、活動の観察、振り返りシート、小テスト、定期考査	25%
c. 数学的な技能	数学I A II Bにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査	26%
d. 知識・理解	数学I A II Bにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。	振り返りシート、小テスト、定期考査	26%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	14	数学Iの総合的復習 第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 数と式、2次関数、図形と計量およびデータの分析に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 			○	○
	5	19	数学Aの総合的復習 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 場合の数と確率、図形の性質および整数の性質に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○
	6	21	数学IIの総合的復習 第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式 第11章 三角関数 第12章 指数関数と対数関数 第13章 微分法と積分法	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○
	7	15	数学Bの総合的復習 第14章 ベクトル 第15章 数列	<ul style="list-style-type: none"> ベクトル、数列における基本的な概念を理解し、基本的な技能の習熟を図る。 ベクトル、数列に関心をもち、それらを用いて、事象を考察することができる。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	6	数学Ⅰの総合的演習 第1章 数と式 第2章 2次関数 第3章 図形と計量 第4章 データの分析	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 場合の数、確率、整数の性質、図形の性質の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 いろいろな式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 ベクトル、数列の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、数学のよさを認識する。 	○	○	○	○
	9							
	10	16	数学Aの総合的演習 第5章 場合の数と確率 第6章 図形の性質 第7章 整数の性質 数学Ⅱの総合的演習 第8章 式と証明 第9章 複素数と方程式 第10章 図形と方程式		○	○	○	○
	11							
12	17	数学Bの総合的演習 第11章 三角関数 第12章 指数関数と対数関数 第13章 微分法と積分法 第14章 ベクトル 第15章 数列	○	○	○	○		

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	17	数学的な見方や考え方を育成する問題演習	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数、確率、整数の性質、図形の性質、式と証明、いろいろな式、三角関数、指数関数と対数関数、微分法と積分法、平面上のベクトル、空間のベクトル、数列の内容またはそれらを相互に関連つけた内容を扱ったり発展させたりする活動を通じて、物事を多面的・発展的に考える力を育成する。 	○	○	○	○
	2	8						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

身につけて欲しい高校数学の学習

まず、速く正確な計算力を身につけてください。その上で、授業や課題に次のような姿勢で取り組んでください。

1. 授業で扱った問題を解けるようする。初めて出会った問題であっても、柔軟に考えて取り組み、解決できる思考力を身につける。
2. 思考したことを、数式や文章で表現し、解答する表現力を磨く。

※そのために解き直しをするなど、繰り返し問題を解いて基礎・基本を身につけることが大切です。

年間指導計画表

教科・科目	理科・物理	単位数	5単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	物理の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。実験・観察を行い、探究する能力と態度を育てる。
使用教科書・副教材等	改訂 物理基礎（東京書籍） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社） 改訂版フォトサイエンス物理図録（数研出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	物理学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	行動観察 発問 提出物 レポート	25%
b. 思考・判断・表現	物理学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 課題テスト 行動観察 発問	24%
c. 観察・実験の技能	物理学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	課題提出 レポート	18%
d. 知識・理解	物理学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	課題テスト 定期考査	33%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	14	1編 力と運動 3章 さまざまな運動② ～円運動と万有引力～ 4章 さまざまな運動③ ～単振動～	<ul style="list-style-type: none"> 万有引力による等速円運動や力学的エネルギー保存法則を理解することができる。 第一宇宙速度・第二宇宙速度を理解し、表現する。 単振動の変位・速度・加速度・復元力を導き、バネ振り子・単振り子の運動を理解する。 	○			○
	5	19	2編 熱 1章 気体分子の運動と圧力 2章 気体の状態変化	<ul style="list-style-type: none"> 気体分子の運動の視点から気体を理解する。 気体分子の運動と関連づけて、気体の運動エネルギー・内部エネルギーを理解する。 熱機関の熱効率を、P-Vグラフやモル比熱を使って表現する。 	○		○	○
	6	21	3編 波 1章 波の性質	<ul style="list-style-type: none"> 波を表す数式を理解する。 ホイヘンスの原理や反射・屈折の法則、回折の実験を通じて、波の伝わり方について理解する。 波の干渉を理解し、強弱を表現する。 	○	○	○	○
	7	15	2章 音 3章 光	<ul style="list-style-type: none"> ドップラー効果について理解し、日常生活との関わりを考察する。 光の実験を通じて、光波の性質、回折、反射、干渉、レンズについて理解する。 ヤングの実験や薄膜の干渉など、さまざまな光の干渉について、実験を通して理解する。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	6	4編 電気と磁気	<ul style="list-style-type: none"> 電気の観察を通じて、電界や電位の概念を理解する。 コンデンサーの電気容量が極板面積・間隔・誘電率によって決まることを学び、直列・並列接続など回路中でのほたらきを理解する。 マイクロな視点からオームの法則を導く。 キルヒホッフの法則を用いて、複雑な直流回路・非直線抵抗回路・ホイートストンブリッジ回路を考察する。 電流の周囲にできる磁場・磁束密度の大きさ・向きを学び、磁場に置かれた電流にはたらく電磁力の大きさ・向きの理解につなげる。 磁場の中で運動する荷電粒子がローレンツ力を受け、等速円運動することを理解し、速さや周期を求める。 電磁誘導の法則から誘導起電力の大きさ・向きを求める。 磁場中で運動する導体棒の運動を電磁誘導や力学的な視点から理解する。 相互誘導・自己誘導の現象から、コイルのはたらきについて理解を深める。 R L C直列・並列回路について学び、インピーダンスの概念を理解する。 電気振動から電磁波の発生のしくみを理解する。 	○			○
	9	21	1章 電界と電位		○	○	○	○
	10	16	2章 電流		○		○	○
第2学期	11	21	3章 電流と磁界	<ul style="list-style-type: none"> 光は波動性だけではなく、粒子性ももつことを理解する。 「原子のしくみ」「原子核の成り立ち」について、物理界の偉人達が導き出した過程を学ぶ。 核反応について知り、広島県民として平和について考える。 	○		○	○
			4章 電磁誘導と電磁波		○	○	○	○
			5編 原子		○	○	○	○
第2学期	12	17	1章 電子と光	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生で学んだ物理学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。 	○			○
			2章 原子と原子核		○	○	○	○
			終章 物理学が築く未来		○	○	○	○
第2学期	12	17	物理基礎・物理	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生で学んだ物理学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。 	○			○
			総復習（知識の活用）		○			○
			総復習（知識の活用）		○			○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	17	物理基礎・物理	<ul style="list-style-type: none"> 2・3年生で学んだ物理学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。 2・3年生で学んだ物理学に関する知識を使い、科学技術の発展が世界に与えた影響について考える。 	○			○
	2	8	総復習（知識の活用）		○	○		

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

<p>○授業開始時間を守る、正しい服装で授業を受けるなど、高校生らしい態度で授業に臨んでください。</p> <p>○「課題の提出」の意味について授業で話しをします。課題は期限を守り、意味のある内容にしましょう。</p> <p>○授業は、講義、ペア学習、グループ学習など、さまざまな形態で行います。聴くときは集中して聴き、話すときは積極的に話し、メリハリをつけて授業を受けてください。</p> <p>○学習活動に積極的に参加しましょう。みなさんの理解が深まるように、様々な活動を通して、他者に意見を伝える機会を設けます。間違いを恐れずに、自分の意見に自信を持って、活動に参加してください。</p>

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学基礎演習	単位数	2単位
		学科・学年・学級	3学年・文科型選択者

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1年次に履修・習得した化学基礎の内容を総復習し、基本的事項の定着を図る。
使用教科書・副教材等	改訂版 新編化学基礎(数研出版)、2021 セミナー化学基礎+化学(第一学習社)

2 評価の観点等

観点	趣旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、科学的な見方や考え方を身に付けている。	ノート点検 提出物 授業態度	20%
b. 思考・判断・表現	物質とその変化の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	小テスト 定期考査	30%
c. 技能	物質とその変化に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験レポート 定期考査	20%
d. 知識・理解	物質とその変化について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	小テスト 定期考査	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	5	序章 化学と人間生活	○化学の研究成果が人間生活に果たしている役割を、身近な具体例を通して調べる。	○			○
	5	8	第1編 物質の構成					
			1章 物質の探究 ①純物質と混合物 ②化合物と元素 ③物質の三態	○物質の分類、元素、同位体、原子の構造について復習する。		○		
	6	8	2章 原子の構造と元素の周期表 ①原子の構造 ②元素の周期律と元素の性質	○元素の周期律について復習する。	○			○
3章 化学結合 ①イオン ②イオン結合 ③共有結合 ④配位結合 ⑤分子間の結合 ⑥金属結合			○化学結合の種類と特徴を復習し、物質の性質が化学結合によって決まることを復習する。	○	○		○	
7	6	第2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 ①原子量・分子量・式量 ②物質	○元素の原子量、分子量、式量の求め方を復習する。 ○物質を復習する。		○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	③溶液の濃度	○溶液の濃度について復習する。	○		○	
	9	8	④化学反応式と量的関係	○化学反応式と量的関係について復習する。		○	○	
	10	6	第2節 酸と塩基の反応	○酸と塩基の定義、酸・塩基の強弱を復習する。	○			○
			①酸と塩基	○水素イオン濃度とpHを復習する。		○		
			②水素イオン濃度とpH	○中和を復習する。		○		○
			③中和反応と塩の性質	○中和滴定を復習する。			○	
11	9	第3節 酸化還元反応	○酸化還元の定義を復習する。	○			○	
		①酸化と還元	○酸化数と酸化剤・還元剤の判別を復習する。 また、量的関係も復習する。		○		○	
		②酸化剤と還元剤	○金属のイオン化傾向を理解し、反応性やその応用を復習する。	○		○		
		③金属の酸化還元反応	○電池を復習する。	○		○	○	
		④さまざまな酸化還元反応		○		○	○	
12	7	化学基礎の総復習（知識の活用）	○1、3年生で学んだ化学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。	○	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	7	化学基礎の総復習（知識の活用）	○1、3年生で学んだ化学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。	○	○		○
	2	3	化学基礎の総復習（知識の活用）	○1、3年生で学んだ化学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。	○	○		○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 課題は期限を守り、意味のある内容にしましょう。
- 授業は、講義、ペア学習、グループ学習など、さまざまな形態で行います。聴くときは集中して聴き、話すときは積極的に話し、メリハリをつけて授業を受けてください。
- 学習活動に積極的に参加しましょう。みなさんの理解が深まるように、様々な活動を通して、他者に意見を伝える機会を設けます。間違いを恐れずに、自分の意見に自信を持って、活動に参加してください。

年間指導計画表

教科・科目	理科・化学	単位数	3単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	化学(東京書籍)、2021 セミナー化学基礎+化学 (第一学習社)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	ノート点検 提出物 授業態度	20%
b. 思考・判断・表現	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	小テスト 定期考査	30%
c. 技 能	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	実験レポート 定期考査	20%
d. 知識・理解	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。	小テスト 定期考査	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点								
					a	b	c	d					
第1学期	4	8	第4編 無機物質 3章 典型金属元素 ①アルカリ金属 ②2族元素 ③1, 2族以外の典型金属元素 4章 遷移元素	<ul style="list-style-type: none"> アルカリ金属の物質の性質や用途を理解する。 2族元素の物質の性質や用途を理解する。 アルミニウム、亜鉛、スズ、鉛の物質の性質や用途を理解する。 	○	○	○	○					
	5	11	①遷移元素の化合物 ②イオンの分離・確認 5章 無機物質と人間生活 ①金属 ②セラミックス						<ul style="list-style-type: none"> 遷移元素の物質の性質や用途を理解する。 金属イオンの分離と確認方法を理解する。 	○	○	○	○
	6	13	5編 有機化合物 1章 特徴と構造 ①特徴 ②構造式の決定 2章 炭化水素 ①飽和炭化水素 ②不飽和炭化水素						<ul style="list-style-type: none"> 有機化合物の特徴を理解する。 有機化合物の化学式を決定するまでの過程を学習し、その原理を理解する。 	○	○	○	○
	7	9	3章 含酸素化合物 ①アルコールとエーテル ②アルデヒドとケトン ③カルボン酸とエステル ④油脂とセッケン						<ul style="list-style-type: none"> アルコールとエーテルの性質や用途を理解する。 アルデヒドとケトンの性質や用途を理解する。 カルボン酸とエステルの性質や用途を理解する。 油脂とセッケンの性質や用途を学習する。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	4	4章 芳香族化合物 ①芳香族炭化水素 ②酸素を含む化合物	<ul style="list-style-type: none"> 芳香族炭化水素の性質や用途を理解する。 フェノール類、芳香族カルボン酸について、その性質や用途を理解する。 芳香族ニトロ化合物、芳香族アミン、アゾ化合物について、その性質や用途を理解する。 芳香族化合物の分離について理解する。 栄養素について既習事項と関連付けを行い、実生活への応用を模索する。 医薬品について既習事項と関連付けを行い、実生活への応用を模索する。 染料について、その性質や用途を理解する。 洗剤について、その性質や用途を理解する。 高分子化合物について、その分類や重合の種類を理解する。 単糖類と二糖類の構造や性質を理解する。 デンプンとセルロースの構造や性質を理解する。 α-アミノ酸の構造や性質を理解する。 タンパク質の構造や性質を理解する。 DNA と RNA の構造や性質を理解する。 合成繊維の構造や性質、用途を理解する。 プラスチックの構造や性質、用途を理解する。 天然ゴムと合成ゴムの構造や性質を学習する。 1、2、3年生で学んだ化学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。 	○	○	○	○
	9	13	③窒素を含む化合物 ④化合物の分離		○	○	○	○
			5章 有機化合物と人間生活 ①食品		○			○
			②医薬品		○	○		
			③染料 ④洗剤		○		○	○
	10	9	第6編 高分子化合物 1章 高分子化合物	○	○			
			2章 天然高分子 ①単糖類・二糖類			○	○	
			②多糖類		○	○	○	
			③アミノ酸		○	○	○	
			④タンパク質	○		○		
			⑤核酸	○			○	
	11	13	3章 合成高分子 ①合成繊維 ②プラスチック ③ゴム	○		○		
			②プラスチック	○	○		○	
			③ゴム	○			○	
	12	10	化学基礎・化学 総復習（知識の活用）	○	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	10	化学基礎・化学 総復習（知識の活用）	<ul style="list-style-type: none"> 1、2、3年生で学んだ化学を総復習し、習得した知識を活用できるようにする。 1、2、3年生で学んだ化学に関する知識を使い、科学技術の発展が世界に与えた影響について考える。 	○	○		○
	2	5			○	○		○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 課題は期限を守り、意味のある内容にしましょう。
- 授業は、講義、ペア学習、グループ学習など、さまざまな形態で行います。聴くときは集中して聴き、話すときは積極的に話し、メリハリをつけて授業を受けてください。
- 学習活動に積極的に参加しましょう。みなさんの理解が深まるように、様々な活動を通して、他者に意見を伝える機会を設けます。間違いを恐れずに、自分の意見に自信を持って、活動に参加してください。

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物基礎演習	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	「生物基礎」全範囲の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な力を養う。また、2学年での学習内容を復習するとともに、センター試験に対応した問題演習を行う。
使用教科書・副教材等	教科書： 「高等学校理科学 生物基礎」 (数研出版) 補助教材： 「フォトサイエンス生物図録」 (数研出版) 傍用問題集： 「リードα生物基礎」 (数研出版) 「ビーライン生物基礎」 (第一学習社)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的・積極的にそれらを探究するとともに、事象を科学的に考察し処理する態度を身につけている。	行動観察 提出物	20%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題点を見だし、観察・実験を行い事物を実証的、論理的に考え問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。	定期考査 提出物 行動観察	30%
c. 技 能	観察・実験の技術を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果から導き出された自らの考えを表現する。	行動観察 提出物	20%
d. 知識・理解	観察・実験などを通して自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	行動観察 提出物 定期考査	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	5	復習と問題演習 「生物と遺伝子」分野 1. 生物の多様性と共通性	「生物と遺伝子」分野 1. 生物の多様性と共通性 2. エネルギーと代謝 3. 遺伝子とその働き などの問題演習で解答できるように、理解・記憶・考察する力を養う。		○		
	5	8	2. エネルギーと代謝				○	
	6	8	3. 遺伝子とその働き		○			
	7	6						

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	「生物の体内環境の維持」分野 1. 生物の体内環境 (1)	「生物の体内環境の維持」分野 1. 生物の体内環境(1)	○			
	9	8						
	10	6	「生物の多様性と生態系」分野 1. 植生の多様性と分布	「生物の多様性と生態系」分野 1. 植生の多様性と分布			○	
	11	9						
12	7							

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	7	総合問題演習	生物基礎全範囲の複合問題演習で解答できるように、理解・記憶・考察する力を養い、入試・就職試験などに適応できるようにする。	○	○	○	○
	2	3						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 授業を集中して受けるようにしてください。
- 授業中に基礎的な内容の問題演習をするので、積極的に取り組んでください。
- 実験・観察があるので、主体的に臨むようにしてください。
- 定期テストの準備は計画的に行いましょう。

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	5単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・理科型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	「生物基礎」全範囲の基本的な概念や原理・法則を理解させるとともに、「生物」の発展的内容まで踏み込み応用力を育成し、科学的な力を養う。
使用教科書・副教材等	教科書： 「高等学校理科学 生物」（数研出版） 補助教材： 「フォトサイエンス生物図録」（数研出版） 傍用問題集： 「リードL i g h t ノート生物基礎」（数研出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的・積極的にそれらを探究するとともに、事象を科学的に考察し処理する態度を身につけている。	行動観察 提出物 定期考査	20%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題点を見だし、観察・実験を行い事物を実証的、論理的に考え問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断する。	定期考査 提出物 行動観察	30%
c. 技 能	観察・実験の技術を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果から導き出された自らの考えを表現する。	行動観察 提出物 実験レポート	20%
d. 知識・理解	観察・実験などを通して自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	行動観察 提出物 定期考査	30%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
第1学期	4	14	第1章 細胞と分子 1. 生体の構成—個体・細胞・分子 2. タンパク質の構造と性質 3. 酵素の働き 4. 細胞の構造と働き 5. 細胞の活動とタンパク質	<ul style="list-style-type: none"> 細胞を構成する物質について学習する。特に、タンパク質については、基本的な構造を学習したうえで、酵素など、その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解する。 細胞小器官など、細胞の内部構造とそのはたらきについて学習する。生体膜や細胞骨格については、その構造や機能を学習する。これらの学習を通じて、細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。 「生物基礎」で概要を学習した呼吸・光合成について、その詳細なしくみを理解する。呼吸においては、各過程の反応を学習し、その際、有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。光合成においては、各過程の反応を学習し、その際、光エネルギーが化学エネルギーに変換されることを理解する。また、窒素同化の概要についても理解する。 「生物基礎」で学習した DNA の構造・複製・タンパク質合成について、その詳細なしくみを理解する。その際、遺伝情報の変化についても学習する。次に、遺伝子の発現調節の概要を、転写レベルの調節を中心に学習する。さらに、遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し、その原理と有用性を理解する。 染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで、有性生殖では、減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。次に、動物の配偶子形成・受精と初期発生の過程を学習する。また、細胞の分化や形態形成のしくみについて、誘導現象を中心に理解する。前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し、器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。 	○				
	5	19	第2章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 4. 窒素同化			○			
	6	21	第3章 遺伝情報の発現 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. バイオテクノロジー					○	
	7	15	第4章 生殖と発生 1. 遺伝子と染色体 2. 減数分裂と遺伝情報の分配 3. 遺伝子の多様な組み合わせ 4. 動物の配偶子形成と受精 5. 初期発生の過程 6. 細胞分化と形態形成 7. 植物の発生					○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点					
					a	b	c	d		
第2学期	8	6	第5章 動物の反応と行動 1. ニューロンとその興奮 2. 刺激の受容 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	<ul style="list-style-type: none"> ニューロン(神経細胞)の基本的な構造とそのはたらきを理解する。次に、受容器で受け取られた刺激(情報)が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。その際、刺激の受容に関しては視覚器と聴覚器を中心に取り上げ、効果器に関しては筋肉を中心に取り上げる。動物の行動については、神経系における情報の流れと関連づけながら扱う。 植物は成長を調節するなどして環境に应答していることを理解する。そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。 個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。その際、生物群集はさまざまな個体群の集まりによって構成されており、それぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。次に、生態系における物質生産について学習する。その際、いくつかの生態系の物質生産の特徴や各栄養段階とエネルギー効率の関係について学習する。さらに、生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を認識する。 生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。生物の進化については、そのしくみを学習する。そのうえで、分子進化の概念や種分化のしくみについても学習する。 	○					
	9	21					○			
	10	16	第6章 植物の環境応答 1. 植物の反応 2. 成長の調節 3. 花芽形成と発芽の時期						○	
	11	21	第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間関係 3. 異種個体群間関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物の多様性							○
	12	17	第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源 2. 生物の変遷 3. 進化のしくみ						○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	17	第9章 生物の系統 1. 生物の分類と系統 2. 原核生物 3. 原生生物	<ul style="list-style-type: none"> 生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。 形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列といった分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても扱う。 個々の分類群について、その概要を学習する。 	○			
	2	8	4. 植物 5. 動物 6. 菌類				○	

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 授業を集中して受けるようにしてください。
- 授業中に基礎的な内容の問題演習をするので、積極的に取り組んでください。
- 実験・観察があるので、主体的に臨むようにしてください。
- 定期テストの準備は計画的に行いましょう。

年間指導計画表

教科・科目	理科・地学基礎演習	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	3学年文型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	2年次に履修・習得した地学基礎の内容を総復習し、探究活動を通して地学的な考え方や解釈を学び、科学的な思考力を養う。
使用教科書・副教材等	啓林館「地学基礎」、浜島書店「ニューステージ地学図表」、河合出版「マーク式基礎問題集地学基礎」

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	行動観察、提出物、実験レポート	15%
b. 思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事物を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	定期考査 提出物 実験レポート	30%
c. 技 能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	行動観察 実験レポート	15%
d. 知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	定期考査・小テスト	40%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	10	地学基礎の復習と問題演習 ①	・副教材やプリント等で、地学基礎の基本的内容を押さえ、応用問題に取り組む。 ・太陽系の姿、惑星の特徴、太陽系の小天体、その誕生、地球概観と構造、プレートの運動の問題演習及び探究活動	○	○	○	○
	5	1	中間考査		○	○		○
	6	12	地学基礎の復習と問題演習 ②	・副教材やプリント等で、地学基礎の基本的内容を押さえ、応用問題に取り組む。 ・地震・火山・火成岩と鉱物の問題演習及び探究活動	○	○	○	○
	7	1	期末考査		○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	9	1 2	地学基礎の復習と問題演習 ③	・副教材やプリント等で、地学基礎の基本的内容を押さえ、応用問題に取り組む。 ・堆積岩・変成岩・地球の歴史・大気・海洋・宇宙の問題演習&探究活動 宇宙の歴史や地球の歴史や地層の成り立ち・地球カレンダーを通して、空間的広がりや時間的広がりを学ぶ	○	○	○	○
	1 0	1	中間考査		○	○		○
	1 1	1 4	地学基礎の復習と問題演習 ④		○	○	○	○
	1 2	1	期末考査		○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	8	地学基礎の探究活動	・実験・実習を通じて、地球と宇宙の歴史や成り立ちについて、これまで学習したことについての理解と教養を深め、人間生活と自然環境が深く関わっていることを認識する。	○	○	○	○
	2	1 1	地学基礎の実験・実習		○	○	○	

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

○地球人としての自覚を持とう。

授業開始時間を守ることや課題を期限内に提出することは基本的なことです。同時に地球人として地球を学ぶことの大切さを認識しよう。

○授業を大切に復習と実力アップを意識した学習に取り組もう。

集中して様々なタイプの問題演習に取り組み、基礎力を定着させ応用力を身に付けよう。

○科学的な思考力を磨こう。

学習は暗記に頼らず、与えられた資料をもとに思考し創造し解決策を導くことができるように日頃から図表見て正しく判断する科学的な思考力を身に付けよう。

年間指導計画表

教科・科目	保健体育・体育	単位数	2単位
		学年・学級	第3学年・全学級

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
使用教科書・副教材等	現代高等保健体育（大修館書店）・ステップアップ高校スポーツ2021（大修館書店）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任などの態度を身につけるとともに、健康・安全に留意して自ら計画的に運動しようとする。	授業の観察、出席状況	25%
b. 思考・判断・表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	授業の観察、出席状況	25%
c. 技 能	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動や合理的な行ない方を身に付けている。	授業の観察、出席状況、技能テストや記録	25%
d. 知識・理解	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動技能の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基本的な事項を理解し、知識を身に付けている。	ファイル提出、授業観察、グループノートの記録	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	5	【体育理論】 3単元 豊かなスポーツライフの設計 1. 生涯スポーツの見方・考え方 2. ライフスタイルに応じたスポーツ	・社会の変化とともにスポーツの役割がどのように変化し、ライフスタイルに対応した楽しみ方を理解する。 ・自らに適した運動の機会や活動の場を持ち、スポーツとのかかわりについて理解する。	○	○		○
	5	8	【体づくり運動】 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整え、仲間と楽しく交流する。 ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。	○	○	○	○
	6	8	・球技（ソフトボール）	・ソフトボールは攻撃側と防御側に分かれ、攻防を交替しながら得点を競う野球型ゲームである。その特性を理解し、個人的技能や集団技能を活用し学習段階に応じた作戦を立てゲームができるようにする。	○	○	○	○
	7	6	・球技（バドミントン）	・バドミントンはネット型の球技で、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防が勝敗に影響する競技である。個々の基本的な技術を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるための練習を積極的に行う。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	【体育理論】 3. 日本のスポーツ振興 4. スポーツと環境	<ul style="list-style-type: none"> ・振興のための法律や施策があり、そのための条件整備が行われていることや、支援する活動やNPOなどがあることを理解する。 ・スポーツと環境負荷についての問題、環境に配慮した行動が必要なことについて理解する。 	○	○		○
	9	8	【体づくり運動】 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整え、仲間と楽しく交流する。 ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。 	○	○	○	○
	10	6	・ダンス（民踊）	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡やダンスの文化的な背景や、動きの特徴を理解し、自己の能力に応じた課題を選んで踊りを身につけたり、相手との対応の仕方を工夫したりして、みんなで楽しく踊って交流することができる。また、踊りを通して自国の文化や異文化の理解を深めることができるようにする。 	○	○	○	○
	11	9	・球技（ソフトボール）	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボールは攻撃側と防御側に分かれ、攻防を交替しながら得点を競う野球型ゲームである。その特性を理解し、個人的技能や集団技能を活用し学習段階に応じた作戦を立てゲームができるようにする。 	○	○	○	○
	12	7	・球技（バドミントン）	<ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンはネット型の球技で、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防が勝敗に影響する競技である。個々の基本的な技術を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるための練習を積極的に行う。 	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	7	【体づくり運動】 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	<ul style="list-style-type: none"> ・運動を通して自分や仲間のからだや心の状態に気づき、からだの調子を整え、仲間と楽しく交流する。 ・各種の運動・スポーツ種目に関連する体力および健康に関連する体力を向上させる。 	○	○	○	○
	2	3	・球技（バレーボール）	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボールはネット型の球技であり、コンビネーションによって勝敗に影響する競技である。個々の基本的な技術を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるための練習を積極的に行う。 	○	○	○	○
			・球技（サッカー）	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの基本的な技術を身につけるとともに、それを集団的な技能に結びつけるため練習を積極的に行う。 	○	○	○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

私たち人間は、さまざまな動きを使いながら生活し、文化を創造してきました。とりわけスポーツは、体を動かして楽しむ文化として生まれ、発展を続けています。体育の授業ではスポーツの楽しさや喜びを味わい、技術や知識を身につけ、スポーツ文化を継承・発展させる主体者形成を目指します。そのために、「できる」・「わかる」を仲間と共有しながら、みなさんのスポーツ観を揺さぶるような授業を展開します。

年間指導計画表

教科・科目	芸術・音楽表現	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
使用教科書・副教材等	Tutti I 改訂版（教育出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	授業観察 振り返りシート	25%
b. 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	ワークシート 実技	25%
c. 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	実技	25%
d. 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート 相互発表	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	6	音楽と関わる仕事	・音楽作品が生まれてから、人々の耳に届くまでにかかる職業について学ぶ。生活及び社会における音楽や、音楽に関わる人々の役割や意義についての理解を深め、様々な音楽を歌い、鑑賞する。	○			○
	5	6	楽しい童謡 ～ピアノで弾き語りをしよう～	・なじみのある童謡をピアノで弾き語りし、楽曲の表現内容を総合的に理解しながら創意工夫をして歌う。	○	○	○	
	6	2	季節のうたを歌おう ～春・夏～	・様々な表現形態で季節の歌（童謡）を歌う。ソロやデュエット、合唱などを通して、それぞれの良さや醍醐味を味わう。	○	○	○	
		6	独奏に挑戦	・ピアノの技術向上を目指し、演奏発表する。独奏の演奏形態の特徴を理解し、表現上の効果を意識して個性豊かに表現する。	○	○	○	
	7	6	1学期の音楽学習のまとめ	・1学期のまとめとして、弾き語り及び歌唱の演奏発表を行う。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	2	季節の歌を歌おう ～秋・冬～	<ul style="list-style-type: none"> ・季節に合った歌を選択し、伴奏づけを行い発表し合う。歌う喜びを味わうとともに、伴奏づけを行うことで、ピアノの技術向上を目指し、楽典の知識理解を図る。 ・なじみのある曲を中心にそれぞれ楽器を選択して、合奏アンサンブルを行う。周りの音を聴きながら表現することの喜びや良さを味わう。 ・歌詞のメッセージや詞に付けられた音楽の旋律やリズム、ハーモニーの意味を探る。音の重なり合う響きを感じ合う。 ・様々な表現形態による楽曲を選択し、楽器の音色や特徴を生かして個性豊かにアンサンブルを行う。 	○	○	○	
	9	8	伴奏づけしてみよう					
	10	8	器楽アンサンブルをしよう		○	○	○	
	11	8	合唱に挑戦		○	○	○	
	12	6	様々な表現形態を生かした合奏	○	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	6	進路や興味・関心に応じた個人研究 ～生涯に渡って	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの進路や興味・関心に応じて個別課題を設定し、その解決を図るための学習活動、音楽活動を通して、一人ひとりの個性豊かな音楽能力を高め、生涯に渡って音楽を愛好していくための豊かな音楽観を形成する。 	○	○	○	○
	2	6	音楽を愛好するために～					

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

音楽表現では、保育音楽の内容にも触れながら授業を行います。歌、ピアノの演奏技能の向上を目指すことはもちろんですが、技能より大切なのは表現意図をもって表情豊かに歌を歌うことです。将来、子どもたちに自分を表現する手段として演奏することの喜びを伝えることができるよう、積極的に授業に取り組み、充実した豊かな時間を過ごしましょう。

年間指導計画表

教科・科目	芸術科・美術表現	単位数	2単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
使用教科書・副教材等	高校生の美術1（日本文教出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自分の表現への意志や、意図、発想などを大切にしながら、よりよい表現に向けて自己挑戦する態度を重視する。	観察	25%
b. 思考・判断・表現	結果としての作品からだけでなく、アイディアスケッチや構想図、発言の内容や学習のメモなどから感性や発想力、構想力を読み取るよう努める。また、表現意図や構想にふさわしい表現であるか、独創的な表現を試みているかなどについても同様に評価する。	観察、アイディアスケッチ、構想図	25%
c. 技能	制作に必要な道具、材料を学習した知識に基づき、目的に合わせて適切に安全に注意して使用しているか。 また、望む表現・意図に合わせて、技法を選択できるか。	観察、作品	25%
d. 知識・理解	他者の美術作品などの表現の工夫や美術文化などから、自分の制作している作品との関わりを見だし、その良さや美しさを味わっているか。	観察、講評、ワークシート	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	2	色彩について	○色彩についての基礎知識を学ぶ。	○			
	5	10	基礎デザインの制作	○色彩についての知識を活かし、デザイン作品を制作する。 ○配色や構成、全体のバランスに留意し、使用者を意識した設計を行う。		○	○	
	6	14	油彩画の制作	○油彩の技法を学ぶ。	○			
	7			○名画（油彩）の鑑賞を通し、時代ごとの特徴や表現方法の多様性を知る。 ○油彩の特性を理解し、描法を創意工夫しながら制作に取り組む。		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	12	工芸作品の制作	○材料、用具の特性をよく理解して使用する。 ○機能と美を意識したデザインをする。 ○自分なりの技法の開発を追究する。 ○複数の描画材や素材を組み合わせ、自分の世界観にあった表現技法を模索する。	○	○	○	
	9	20	ミクストメディア作品の制作					
	10							
	11							
	12							

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	12	応用デザインの制作	○いろいろな描画用具、技法に触れ、絵の具を上手に扱う。応用力のある個性豊かな作品作りを目指す。	○	○	○	○
	2							

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 授業時間数が少なく、限られているので、集中して、能率良く作業をするようにしよう。
- 美術は手間です。こだわりを持って手間を惜しまないようにすれば、おのずから、実力が身に付いてきます。
- 提出物の期限を守るようにしよう。常に次に行うことを考え、事前に準備をし、忘れ物をしないようにしよう。他の者に迷惑をかけない。後片付けを確実に行ってください。手間をかけた作品は必ず良い作品になります。

年間指導計画表

教科・科目	芸術・書道表現	単位数	2単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	硬筆、毛筆の実用書道を中心に学習し、書道の実践的技能の向上を目指す。
使用教科書・副教材等	東京書籍 書道Ⅰ

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	毛筆・硬筆書道において、実技や理論的内容を理解し、主体的かつ計画的に取り組もうとしている。	提出物、作品、ファイル(ワークシート)、観察	30%
b. 思考・判断・表現	用具用材を吟味し、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	提出物、作品、ファイル(ワークシート)	30%
c. 技能	漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の基礎学習で習得した表現の能力を生かし、より効果的な表現を身につけるよう工夫している。	提出物、作品	30%
d. 知識・理解	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、書よさや美しさを創造的に味わっている。	提出物、観察	10%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	6	・毛筆の基礎と理論学習	○平仮名、片仮名、楷書、行書の基本的な点画や用筆法、運筆法を学び実技力をつける。	○	○	○	
	5	4	・硬筆の基礎と理論学習	○平仮名、片仮名、楷書、行書の基本的な点画や用筆法、運筆法を学び実技力を高める。	○	○	○	
	6	6	漢字の書 ・篆書の基本と臨書	○篆書の造形と用筆法について理解し、表現する。	○	○	○	○
	6	8	篆刻					
	7		・名前を篆書で書く	○篆書の用筆法を生かして、様々な大きさや形の印面に、名前を書く。	○	○	○	
	7		・篆刻の手順を知る	○大・小方形や不定形の落款印を制作する。	○	○	○	
		3	・硬筆の応用	○ハガキの表書きや掲示物の書き方について学ぶ。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	4	漢字仮名交じりの書 ・ 古典を生かした表現	○漢字仮名交じりの文章を作品化することにより、漢字と仮名の調和を考える。 ○水墨画の基本な書き方に触れ、挿絵を含む紙面構成について学ぶ。 ○文章を使った作品制作について考える。 ○屏風の構造を理解し制作する。 ○作品の鑑賞について理解を深める。	○	○	○	○
	9				○	○	○	○
	10	8	・ 紙面構成について		○	○	○	○
	11	10	・ 好きな言葉を使った作品制作		○	○	○	○
	12	10	屏風制作		○	○		○
	1	1	・ 制作の手順について 作品鑑賞		○	○		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	2	・ 毛筆による細字学習 筆書きサイン 手紙文	○様々な書体で自分の名前が書けるようになる。 ○手紙文を毛筆で書く。 ○小筆を使用し、様々な書体で作品制作をすることにより、表現の技能を高める。	○	○	○	
	2				○	○	○	
	2	6	・ 細字創作 レジストラップ制作		○	○	○	○

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 書の基礎基本を復習するとともに、自分の得意な・好きな文字群を選択し作品化する機会が増える。自信をもって表現できるよう芸術的表現力を高めて欲しい。
- 日常生活の中に積極的に書を取り入れ、書への関心を高めて欲しい。
- 中国や日本の書道史の学習においては、世界史や日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- 清書や添削作品、プリント類をファイルしておきましょう。

年間指導計画表

教科・科目	芸術・音楽研究	単位数	3単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	音楽の諸活動を通して、生涯に渡り音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。
使用教科書・副教材等	Tutti I 改訂版（教育出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	授業観察 振り返りシート	25%
b. 音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	ワークシート 実技	25%
c. 音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表現している。	実技	25%
d. 鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシート 相互発表	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	9	音楽と関わる仕事	・音楽作品が生まれてから人々の耳に届くまでにかかる職業について学ぶ。生活及び社会における音楽や、音楽に関わる人々の役割や意義についての理解を深め、様々な音楽を歌い、鑑賞する。	○	○		○
	5	9	様々な表現形態を生かした合奏をしよう	・様々な表現形態による楽曲を選択して、リコーダー、ギター、キーボード、管楽器などの音色や奏法の特徴を生かして個性豊かにアンサンブルを行う。	○	○	○	
	6	8	弾き語りの魅力	・弾き語りの演奏形態の特徴を理解し、表現上の効果を生かして、個性豊かに表現する。	○	○	○	
	4	世界の音めぐり	・世界の様々な音楽を鑑賞し、それぞれの音楽が生まれてきた地域の特性、人々の生活、文化や伝統などを知り、音楽の多様性を理解し、音楽文化を尊重する態度を育む。	○	○		○	
	7	4	舞台芸術～オペラを味わう～	・オペラの音楽から喚起されたイメージや感情を、音楽の構造や特徴などをもとに考え、音楽の美しさや豊かさについて味わい鑑賞する。	○	○		○
	5	日本の音風景～春・夏～	・春や夏に関わりの深い日本の音楽を鑑賞し、我が国の伝統音楽の特徴が、自然や風土の中で育まれてきた美意識に根ざしていることを理解する。	○	○		○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	ポピュラー音楽と私たち	・様々なポピュラー音楽に興味を持ち、その発展や歴史について理解する。	○	○		○
	9	12	演奏研究の成果発表と振り返り	・1学期のアンサンブル及びソロ演奏の成果発表を行う。振り返りとして、自分の成長した点、課題を考察し、今後の進路実現に向けてどのように取り組むかについて見通しをもつ	○	○		○
	10	12	現代音楽の技法	・新しい音楽表現を追求する現代音楽について関心を持ち、音楽の構造上の特徴などについて理解を深める。	○	○	○	
	11	12	作曲のヒミツ ～思いやイメージを表すための 様々な技法～	・現代の音楽作品について、作曲家の思いや音のイメージを表すためにどのような技法を使っているのか、作曲様式を探り、それらが作品の音楽の構造の特徴や美しさにどのように反映されているのかについて理解を深める。	○	○		○
	12	4	個性あふれる音楽とは 音楽の解釈と指揮の役割	・音楽を形作っている要素を生かし、楽曲の表現内容を総合的に理解して、個性豊かに表現する。	○	○	○	
		5	アンサンブルの楽しみ ～表現方法・表現形態を選択して～	・音楽Ⅰ・Ⅱにおけるアンサンブル学習の成果を踏まえて、各自の希望により表現方法・表現形態を及び楽曲を選択し、より良い表現を追求しながら、個性的・創造的な音楽表現を工夫する。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	4	日本の伝統音楽と楽器	・伝統音楽で使用されている楽器や楽器構成の特徴を理解して鑑賞する。	○			○
		5	日本の音風景～秋・冬～	・秋や冬に関わりの深い日本の音楽を鑑賞し、我が国の伝統音楽の特徴が、自然や風土の中で育まれてきた美意識に根ざしていることを理解する。	○			○
	2	9	進路や興味・関心に応じた個人研究 ～生涯に渡って音楽に親しんでいく ために～	・それぞれの進路や興味・関心に応じて個別課題を設定し、その解決を図るための学習活動、音楽活動を通して、一人ひとりの個性豊かな音楽能力を高め、生涯に渡って音楽に親しんでいくための豊かな音楽観を形成する。	○	○	○	

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

様々な表現形態・表現方法で学習を深めていきます。独奏や合奏、ソロや合唱、さまざまな活動を通して、音楽の良さや魅力を追求していきます。また、授業の中では音楽理論やソルフェージュも取り扱います。自分の成果や課題を常に明確化する力を身につけ、進路実現に向けてどのように取り組むのかについて主体的に考えながら授業にのぞんでほしいと思います。

年間指導計画表

教科・科目	芸術・美術研究	単位数	3単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	美術の幅広い活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞能力を伸ばす。自己の進路を見つめ、将来の美術との関わり方を考える。
使用教科書・副教材等	高校生の美術1（日本文教出版）

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	自分の表現への意志や、意図、発想などを大切にしながら、よりよい表現に向けて自己挑戦する態度を重視する。	観察	25%
b. 思考・判断・表現	結果としての作品からだけでなく、アイディアスケッチや構想図、発言の内容や学習のメモなどから感性や発想力、構想力を読み取るよう努める。また、表現意図や構想にふさわしい表現であるか、独創的な表現を試みているかなどについても同様に評価する。	観察、アイディアスケッチ、構想図	25%
c. 技能	制作に必要な道具、材料を学習した知識に基づき、目的に合わせて適切に安全に注意して使用しているか。また、望む表現・意図に合わせて、技法を選択できるか。	観察、作品	25%
d. 知識・理解	他者の美術作品などの表現の工夫や美術文化などから、自分の制作している作品との関わりを見いだし、その良さや美しさを味わっているか。	観察、講評、ワークシート	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	8	デッサン1の制作	○立体的に捉え、質感や量感を描写できる力を養う。試行錯誤の大切さを知る。	○		○	○
	5	10	静物着彩画の制作	○アクリル絵の具の特性を理解し、技法に触れ、絵の具を上手に扱う。個性豊かな作品作りを目指す。	○		○	○
	6	10	平面構成1の制作	○平面における構想、構成力、描写力、色彩構成力の育成を図る。	○	○	○	
	7	11	立体構成の制作	○平面における構想、構成力、描写力、造形表現力の育成を図る。		○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点				
					a	b	c	d	
第2学期	8	16	デッサン2の制作	○複数のモチーフの関係を考慮し、形を正確に捉え、質感や量感を描写できる力を養う。リアリティーを追究する。 ○様々な表現技法を知り、自分らしい表現を追究する。(オリジナリティーを追究する。) ○造形要素を理解し、構成と配色の応用を学ぶ。 ○複数のモチーフの関係を考慮し、形を正確に捉え、質感や量感を描写できる力を養う。リアリティーを追究する。	○		○		
	9						○		
	10	18	平面構成2の制作					○	
	11	14	デッサン3の制作		○		○		
	12								

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1		応用デザインの制作	○いろいろな描画用具、技法に触れ、絵の具を上手に扱う。高度で個性豊かな作品作りを目指す。	○	○	○	○
	2	19						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 授業時間数が少なく、限られているので、集中して、能率良く作業をするようにしよう。
- 美術は手間です。こだわりを持って手間を惜しまないようにすれば、おのずから、実力が身に付いてきます。
- 提出物の期限を守るようにしよう。常に次に行うことを考え、事前に準備をし、忘れ物をしないようにしよう。他の者に迷惑をかけない。後片付けを確実に行ってください。手間をかけた作品は必ず良い作品になります。

年間指導計画表

教科・科目	芸術・書道研究	単位数	3単位
		学科・学年・学級	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	硬筆、毛筆の実用書道を中心に学習し、書道の実践的技能の向上を目指す。
使用教科書・副教材等	東京書籍 書道Ⅰ

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	毛筆・硬筆書道において、実技や理論的内容を理解し、主体的かつ計画的に取り組もうとしている。	提出物、作品、ファイル(ワークシート)、観察	30%
b. 思考・判断・表現	用具用材を吟味し、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	提出物、作品、ファイル(ワークシート)	30%
c. 技能	漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の基礎学習で習得した表現の能力を生かし、より効果的な表現を身につけるよう工夫している。	提出物、作品	20%
d. 知識・理解	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	提出物、観察	20%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	4	漢字の書	○各書体について古典を基に、用筆、運筆、結構について振り返り、表現の技能や鑑賞の能力を高める。	○	○	○	○
		4	・篆書の学習	○書体の変遷について理解する。	○	○	○	○
		4	・隷書の学習					
		4	・隷書創作	○隷書を使った作品制作について学ぶ。	○	○	○	○
		4	・草書の学習					
第1学期	7	12	・楷書の学習	○九成宮醜泉銘の特徴と用筆法について理解し、半紙と半切に表現する。	○	○	○	○
		13	・行書の学習	○蘭亭序の特徴と用筆法について理解し、半紙と半切に表現する。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	10	・漢字創作	○ここまでの学習を基に、書体を1つ選択し、創作作品を制作する。	○	○	○	○
	9	6	表装「軸装」 仮名の書	○軸装の仕方について学ぶ。	○	○	○	○
	10	4	仮名の基本の復習	○仮名の基本について振り返る。	○	○	○	○
	11	6	古筆の学習	○平安時代の古筆の変遷を学び、仮名の書の美の特徴を理解する。	○	○	○	○
	11	4	大書仮名	○各自で和歌や形式を選択し、創作を行い、仮名の書の美しさについて理解を深める。	○	○	○	○
	12	10	仮名創作	○各自で和歌や形式を選択し、創作を行い、仮名の書の美しさについて理解を深める。	○	○	○	○
	12	9	一字書創作	○青墨を使用し、墨色についての理解を深める。 ○全紙1/2画仙紙に1文字を創作することにより、多彩な線表現や墨色について理解を深める。	○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	15	写経	○細字を多く書くことで、実用的な表現の仕方を高める。	○	○	○	○
	2							

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

- 基礎基本を振り返りながら、学習内容を発展させ、作品制作の機会が増える。作品制作を通して芸術的表現力を高めて欲しい。
- 日常生活の中に積極的に書を取り入れ、書への関心を高めて欲しい。
- 中国や日本の書道史の学習においては、世界史や日本史の学習領域とも共通することが多いので注意する。
- 清書や添削作品、プリント類をファイルしておきましょう。

年間指導計画表

教科・科目	外国語 コミュニケーション英語Ⅲ	単 位 数	4 単位
		学年・学級・文科型理科型	第3 学年・全学級

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。
使用教科書・副教材等	○NEW FLAG English CommunicationⅢ (増進堂) ○3rd Edition NEO 現代を見る Approach (いっずな書店) ○共通テスト英語リスニングオリジナル問題集 TOUCH10 (桐原書店) ○Mileage Reader 4 (いっずな書店) ○英語総合問題集 Wonderland 4, 5 (いっずな書店) ○大学入学共通テスト 英語 (リーディング) 対策 Reach 40 (美誠社) ○フェイバリット英単語・熟語 コーパス4500 (東京書籍)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	観察、課題提出、テスト	24%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	観察、定期考査、テスト	27%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	観察、課題提出、定期考査、テスト	26%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	観察、定期考査、テスト	23%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1 学期	4	12	NEW FLAG English CommunicationⅢ (Skills 1~10、Chapter 1~7) TOUCH10	・英文を確実に読み解くために必要なスキルを学ぶ。 ・様々な場面の英語を聞き、イントネーションやリズム、個々の音の特徴などを学ぶ。 ・未知の語句があっても、推測するなどして、全体の要旨を理解する。 ・多様なテーマ、論理構造、文体を持つ英文を読み、語彙力、読解力、要約力を強化する。 ・語彙力を身につけ、英語を的確に理解したり適切に伝えたりする力を伸ばす。	○	○	○	○
	5	12	(Lesson 1-12) Mileage Reader 4 (Lesson 1-12)		○		○	
	6	16	NEO 現代を見る Approach (Unit1-8)		○		○	
	7	12	コーパス4500 Wonderland 4, 5 (週末課題)		○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	4	NEO 現代を見る Approach (Unit9-16)	<ul style="list-style-type: none"> 多様なテーマ、論理構造、文体を持つ英文を読み、語彙力、読解力、要約力を強化する。 様々な場面の英語を聞き、イントネーションやリズム、個々の音の特徴などを学ぶ。 未知の語句があっても、推測するなどして、全体の要旨を理解する。 マークシート形式の問題を通して、これまで学習したことを復習するとともにマークシート形式に慣れる。 	○	○	○	○
	9	16	TOUCH10 (Lesson13-21)		○		○	
	10	16	Mileage Reader 4 (Lesson 13-23)		○		○	
	11	16	Reach 4 0 (第1回～第12回)		○		○	
	12	12			○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	12	Reach 4 0 (第13回～第14回)	<ul style="list-style-type: none"> マークシート形式の問題を通して、これまで学習したことを復習するとともにマークシート形式に慣れる。 多様なテーマ、論理構造、文体を持つ英文を読み、語彙力、読解力、要約力を強化する。 	○	○	○	○
			TOUCH10(30分間模擬)		○	○	○	○
	2	12	NEO 現代を見る Approach (Unit17-20)					

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

1学期は、英文を確実に読み解くために必要な様々なスキルを学び、夏休み以降はそれを活かして多岐にわたる分野の英文読解に挑戦します。読解力を伸ばすには、その土台となる語彙・表現・文法など総合的な力が必要となります。日々の小テストや課題を活用し、反復して確実に覚える努力をしてください。できるだけ多くのいろいろな分野の英文を読んで、「英語を読む」感覚を磨くことが大切です。また、読解する英文の背景知識を身につけるために、広い範囲の様々な分野の本や文章（日本語でも）を読むことを強く勧めます。自分の力で解き進めていくことが第一ですが、授業や家庭学習で分からないことがあれば、積極的に先生に質問しましょう。

年間指導計画表

教科・科目	外国語・英語表現Ⅱ	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・全学級

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与えられた話題について、即興で話すことができる。また、伝えたい内容を整理して論理的に話すことができる。 2. 主題を決め、様々な種類の文章を書くことができる。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて、発表することができる。また、発表されたものを聞いて、質問したり意見を述べたりすることができる。 4. 多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べるすることができる。
使用教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> ○ Vision Quest ENGLISH EXPRESSIONⅡ Hope (啓林館) ○ Vision Quest ENGLISH EXPRESSIONⅡ Hope New Workbook (啓林館) ○ 新演習 750 英文法・語法問題 (いっずな書店) ○ 新演習 750 英文法・語法問題 スタディー・ポイント (いっずな書店) ○ Steady Steps to Writing (数研出版) ○ スクランブル英文法・語法 (旺文社) ○ 英語総合問題演習 Wonderland New Edition 4, 5 (いっずな書店)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	観察、課題提出	22%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	観察、課題提出、定期考査、テスト	39%
c. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	観察、課題提出、定期考査、テスト	39%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	6	Vision Quest (Part2 Lesson1～5)	・各レッスンにおいて扱われる語句・構文等を使った基本的な文を習得することにより、テーマに応じた英文を書くための基礎力を養う。	○	○	○	
	5	6	Vision Quest Workbook (Part2 Lesson1～5)					
	6	8						
	7	6	スクランブル英文法・語法	・英文法・語法・イディオム・会話表現など広範な英語の知識の獲得を目指す。	○	○	○	
			英語総合問題演習 Wonderland New Edition 4, 5 (週末課題)	・活動を通して、様々な場面において自分の意見や考えを他者に的確に伝えることができる力を養う。	○	○		

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	2	新演習 7 5 0 英文法・語法問題 スタディー・ポイント	・入試攻略に必要な基礎力と実践力を同時に養成する。文法について理解するだけでなく、英語を読んで理解し、正しい英文を書くために必要な英語力を身につける。	○	○	○	
	9	8						
	10	8	新演習 7 5 0 英文法・語法問題	・例題を解き、スタディー・ポイントの解説を読みながら文法・語法を正確に理解する。また、演習問題や復習問題で知識の定着を図る。	○	○	○	
	11	8						
	12	6	Steady Steps to Writing Part 1～2	・文法項目ごとに段階を経て部分英訳から全文英訳へ進み、実践力につなげる。	○	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	6	Steady Steps to Writing Part 3～4	・日本語を英語に直訳するのではなく、英語的発想で表現ができるようになる。それにより発展的問題にも対応できる表現力をつける。	○	○	○	
	2	6						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

英語表現の学習で最も重要なことは、始めは間違っている構わないので、できるだけたくさん英語を話したり、書いたりして、自分から発信することです。そして、徐々に英語の語順や特有の表現に慣れていき、最終的にはより正確な英語を使えるようになることを目指しましょう。そのために必ず予習をして授業に臨み、ペアワークでは一言でも多く話せるよう努力してください。さらに、表現して終わりではなく、授業に集中することでより正確な文法や表現方法を身につけてください。

年間指導計画表

教科・科目	外国語・英語研究	単位数	2単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科I型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 日常的な話題について、聞いたことや読んだことを理解している。 2. 情報や考え等を英語で話したり書いたりして伝えることができる。 3. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
使用教科書・副教材等	○ Viewpoint Standard (数研出版) ○ Change the World [Basic] (いいずな書店) ○ Circuit 読解力・作文力のため重要表現 Basic 55 (いいずな書店)

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	観察、課題提出、テスト	24%
b. 外国語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	観察、定期考査、テスト	27%
c. 外国語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	観察、課題提出、定期考査、テスト	26%
d. 言語や文化についての知識・理解	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。	観察、定期考査、テスト	23%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	6	Viewpoint Standard (Lesson 1~15)	<ul style="list-style-type: none"> ・文構造理解に必要なテクニックをの観点から確認し、スムーズな読解につなげる。 ・初見で長文を読み、概要をつかむ力をつける。 ・基本事項を反復しながら、文法の定着を図り、読解力と英作文力につなげる。 	○	○	○	○
	5	6			○	○	○	○
	6	8	Circuit(1~29)		○	○	○	○
	7	6			○	○	○	○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	2	Change the World (Lesson 1~Extra Reading4)	<ul style="list-style-type: none"> ・初見で長文を読み、概要をつかむ力をつける。 ・基本事項を反復しながら、文法の定着を図り、読解力と英作文力につなげる。 	○	○	○	○
	9	8						
	10	8	Circuit(30~55)		○	○	○	
	11	8						
	12	6						

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	6	Change the World (Lesson 13~16)	<ul style="list-style-type: none"> ・初見で長文を読み、概要をつかむ力をつける。 	○	○	○	○
	2	6						

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

この授業は予習を前提とせず、初見で読む英語長文をどれだけ理解できるか、またそれを応用して表現ができるかを重視しています。授業に集中し、積極的に参加してください。また、提出物は提出期限を守ってください。授業でわからないこと等そのままにせず、積極的に質問してください。

年間指導計画表

教科・科目	家庭科・子どもの発達と保育	単位数	3単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付ける。
使用教科書・副教材等	実教出版「子どもの発達と保育」・自主教材：授業プリント

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	子どもの発達の特徴や生活と保育について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	授業観察、実習、提出物、筆記テスト	25%
b. 思考・判断・表現	子どもの発達の特徴や生活と保育について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	授業観察、実習、提出物、筆記テスト	25%
c. 技 能	子どもの発達の特徴や生活と保育について充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	授業観察、実習、提出物、筆記テスト	25%
d. 知識・理解	子どもの発達の特徴や生活と保育について意義や役割を理解し、生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。	授業観察、実習、提出物、筆記テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	8	「子どもの発達と保育」を学ぶにあたって 1章 子どもの発達の特徴 1節 発達と乳幼児期の意義 2節 発達と保育環境 3節 児童観と発達観	・「子どもの発達と保育」のねらいや学習方法について理解する。 ・人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。 ・乳幼児期は、親を中心とした身近な人との関わりにより心が安定し、考え方、感じ方、行動の仕方などが発達していくことを理解する。 ・児童観・発達観は時代背景などにより変化していることを理解し、子どもの人権が保障されるようになった経過を理解する。	◎			○
	5	11	2章 子どもの発達の過程 1節 子どもの発育	・胎児の発育について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を知る。	◎			○
			2節 子どもの精神発達	・乳幼児の身体発育と生理的特徴を学び、養護の重要性も理解する。	○		◎	
			3節 人間関係の発達	・乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解する。		○	◎	
	6	13	3章 子どもの生活 1節 生活と養護	・乳幼児の栄養と食生活について、実習を通して食品の選択、調理などの技術を身に付ける。			◎	○
			2節 子どもの遊び	・遊びの意義と形態、児童文化財、生活習慣、乳幼児の病気とその予防、子どもの事故と安全についてポートフォリオを作成し、発表や相互評価を行う。	○		◎	
			3節 生活習慣の形成					
			4節 健康管理と事故防止					
			○子育て支援施設での実習1	・乳幼児の健康と生活について、保育所や子育て支援施設での実習を通して体験的に学ぶ。各自の課題をもって、保育実習にのぞむ。	○	○	◎	
			○保育所での実習					

1 学期	7	9	○保育に関するレポート、小論文の作成 ○保育課題研究の準備	・子どもに関する新聞記事やニュースについてレポートにまとめる。 ・子育てに関するテーマで小論文を作成する。 ・これまで学んできたことをふまえ、自らの課題を見出し、課題研究のテーマを考える。テーマに関する情報を調査収集し、事前準備を行う。	○	◎	◎	○
---------	---	---	--------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---	---	---	---

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2 学期	8 9	4 13	○児童文化財の制作実習 4章 子どもの保育	・遊びと児童文化財について考え、制作や実演する。		○	◎	
	10	9	1節 保育の意義と重要性 2節 家庭保育と集団保育	・現代の家庭保育と集団保育の現状を理解し、よりよい保育について主体的に考えることができる。	○	◎		○
	11	13	3節 保育の方法 ○子ども園での実習 ○子育て支援施設での実習2	・子ども園や子育て支援施設での実習を通して、保育者のあり方や子どもの生活と環境について理解を深め、子どもと適切にかかわることができる。 ・各自がテーマを設定し保育課題研究を実践し、子育て支援施設でフィールドワークを行う。	○		◎	○
	12	10	○保育課題研究の実践・発表・レポート作成	・課題研究の発表、質疑応答、相互評価を行う中で、課題解決力や表現力を身に付ける。	◎	○	○	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3 学期	1	10	5章 子どもの福祉 1節 子どもの福祉 2節 子育て支援	・児童福祉の理念や法律、制度について学び、その内容や役割について理解する。 ・児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び、児童と家族に対する社会的援助について理解する。				◎
	2	5	学習のまとめ	・子どもを取り巻く環境の変化や子育て支援の現状について調査し、子育て支援の課題と展望について話し合う。 ・これまでの学習を振り返るとともに、自分らしい生き方や職業観、保育者としてこれから身に付けたいことについてまとめ、発表を行う。	○	◎	○	

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

○子ども園や保育所、子育て支援施設での実習、児童文化財の制作など、実験・実習を中心に体験的な学習を多く取り入れています。このような人とかかわる体験を通して、単に幼い子どもの保育に限らず、「自分らしい生き方」を見つけてほしいと願っています。

○授業だけではなく、新聞記事やニュース、保育に関する本などから現在の保育の問題点を見出し、課題研究へとつなげ、将来保育に関わる者として今後の課題を見つけてください。

年間指導計画表

教科・科目	家庭科・フードデザイン	単位数	3単位
		学年・学級・文科型理科型	第3学年・文科Ⅱ型選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を身に付ける。
使用教科書・副教材等	「フードデザイン 新訂版」(実教出版) 自主教材：授業プリント

2 評価の観点等

観 点	趣 旨	評価方法	配分
a. 関心・意欲・態度	食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。	実習、授業観察、提出物、実技テスト、筆記テスト	25%
b. 思考・判断・表現	食生活を総合的に捉えて計画・実践するために課題を見だし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている。	実習、授業観察、提出物、筆記テスト、実技テスト	25%
c. 技 能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する技術を身に付けている。	実習、授業観察、提出物、筆記テスト、実技テスト	25%
d. 知識・理解	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身に付けている。	実習、授業観察、提出物、筆記テスト、実技テスト	25%

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第1学期	4	5	第1章 食生活と健康 1節 食事の意義と役割 2節 食をとりまく現状	・「フードデザイン」のねらいや学習方法について理解する。 ・多様で多量な輸入食材と日本の食糧事情の現状と将来について考える。	◎			○
	5	8	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 からだのしくみと食べ物 2節 炭水化物 3節 脂質 4節 たんぱく質 5節 ビタミン 6節 ミネラル 7節 水・その他の物質 8節 消化と吸収 9節 食事摂取基準と食事計画 10節 ライフステージと栄養計画	・健康維持のために食事がどのように大切かを理解する。 ・さまざまな食品の栄養的な特徴、調理上の性質や加工品、表示や安全、衛生等についてポートフォリオを作成・発表し、発表の相互評価を踏まえて、どのように各自の食生活に取り入れたらよいか考える。 ・さまざまな食品の栄養的な特徴、調理上の性質や加工品を理解し、衛生と安全に配慮した調理ができる。	○	○		◎
	6	8	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 食品の特徴と性質 2節 食品の生産と流通 3節 食品の選択と表示 4節 食品の衛生と安全	・食糧自給率の低下と日本の気候風土を生かした特色ある食材の生産、生産者と消費者が直接繋がる流通経路等、食糧供給と消費について考え、小論文を作成する。	○	◎		○

第1学期	7	6	○調理コンテスト応募 ○食の課題研究の準備	・調理コンテストに向け料理の検討と調理を行う。 ・これまで学んできたことをふまえ、自らの課題を見出し、課題研究のテーマを考える。テーマに関する情報を調査収集し、事前準備を行う。	◎	○		○
					○	◎		○

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第2学期	8	3	第6章 フードデザイン実習	・栄養バランス、年齢、性、身体活動レベル、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、用途に適した献立が作成できる。 ・和風、洋風、中国風等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解できる。 ・和風、洋風、中国風等の料理を引き立てるようなテーブルセッティングができる。 ・テーブルクロス、食器、装飾花、料理の配膳について、配色、照明に配慮するなど食事の目的に適した雰囲気づくりができる。 ・家庭・地域・企業がどのように食育推進を進めていこうとしているか、現代の食生活や時代的背景とともに理解する。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し、調理に生かせる。 ・テーマに合わせて自ら献立作成をし、プレゼンテーションや掲示物、レポートなどを作成する。		○	◎	○
	9	8	1節 献立作成					
	10	6	第5章 料理様式とテーブルコーディネート		○			◎
			1節 料理様式と献立		○	○	◎	
			2節 テーブルコーディネート		○	◎	○	
	11	9	第7章 食育 1節 食育の意義と推進活動		○	○		○
		第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	○		◎	○		
	12	7	○食の課題研究の実践・発表・レポート作成	○	◎		◎	

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
第3学期	1	7	まとめ	・課題研究の発表、質疑応答、相互評価を行う中で、課題解決力や表現力を身に付ける。	○	◎	○	○
	2	3	食の課題研究の実践・発表・レポート作成					

4 教科からの学習アドバイス・授業を受けるにあたっての留意事項

<p>○「食」に関する進路を希望する人が主に選択する授業のため、かなり高度な実習内容となります。履修内容の発展として、料理コンテストに応募します。日頃から自宅で調理をするなど、食材や調理器具にふれる機会を増やしておいてください。</p> <p>○1・2年次とは異なり、多種多様な食材を扱います。常に衛生・安全に留意することが大切です。</p> <p>○「食」や「健康」に関するニュースにアンテナを張り巡らせてください。</p>

令和5年度 総合的な探究の時間 年間指導計画

広島市立美鈴が丘高等学校 全日制課程

実施学年（3）年

<p>学校において定める 目 標</p>	<p>3年間の系統的な探究活動を通じて、変化の激しい社会の中に課題を見いだし、その課題について「自分ごと」化して自ら学び、思考・判断し、問題をよりよく解決しようとする資質や能力を育てる。</p> <p>（1）教科横断的な探究の「型」を学ぶことを通じて、課題の発見と、解決に必要な知識および技能を身につける。</p> <p>（2）社会と自分とのつながりの中から課題を発見し、解決のプロセスを思考・判断したうえで、その分析を他者にわかりやすく伝えるための表現力を身につける。</p> <p>（3）他者との協働的な活動を通じて、主体的に学ぼうとする姿勢やよりよい社会を実現しようとする態度や人間性を身につける。</p>				
<p>内 容</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="159 913 395 1064"> <p>探 究 課 題</p> </td> <td data-bbox="395 913 1492 1064"> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育Ⅲ：進路実現に向けた探究活動 ・平和学習Ⅲ：世界の諸問題 ・地域探究Ⅲ：地域の課題を発見し、解決案を探究する活動 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="159 1064 395 1361"> <p>育成を目指す 具体的な 資質・能力</p> </td> <td data-bbox="395 1064 1492 1361"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の将来を見すえてキャリア意識を育むとともに、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に考える能力 2. 目的に応じて情報を多角的に収集するとともに、他者と協働して検証、分析する能力 3. 自己の考えをまとめ、効果的な手段を用いて相手に正しく伝える能力 4. 協働的な活動を通じて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら昇華させるコミュニケーション能力 </td> </tr> </table>	<p>探 究 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育Ⅲ：進路実現に向けた探究活動 ・平和学習Ⅲ：世界の諸問題 ・地域探究Ⅲ：地域の課題を発見し、解決案を探究する活動 	<p>育成を目指す 具体的な 資質・能力</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の将来を見すえてキャリア意識を育むとともに、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に考える能力 2. 目的に応じて情報を多角的に収集するとともに、他者と協働して検証、分析する能力 3. 自己の考えをまとめ、効果的な手段を用いて相手に正しく伝える能力 4. 協働的な活動を通じて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら昇華させるコミュニケーション能力
<p>探 究 課 題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育Ⅲ：進路実現に向けた探究活動 ・平和学習Ⅲ：世界の諸問題 ・地域探究Ⅲ：地域の課題を発見し、解決案を探究する活動 				
<p>育成を目指す 具体的な 資質・能力</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の将来を見すえてキャリア意識を育むとともに、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に考える能力 2. 目的に応じて情報を多角的に収集するとともに、他者と協働して検証、分析する能力 3. 自己の考えをまとめ、効果的な手段を用いて相手に正しく伝える能力 4. 協働的な活動を通じて、異なる意見や他者の考えを受け入れながら昇華させるコミュニケーション能力 				
<p>付与する単位数</p>	<p>1単位</p>				
<p>授業時数の配当方法</p>	<p>原則木曜日5時間目に授業を固定し、1年間を通じて均等に時間を配分する。 フィールドワークに要した時間は総合的な探究の時間に加える。</p>				
<p>学 習 活 動</p>	<p>地域探究を中核に据え、情報収集と資料作成、発表を組み合わせる学習活動を行う。</p>				
<p>教 材 の 使 用 等</p>	<p>校内で作成したワークシートやタブレット端末等を用いる。</p>				
<p>指導方法・指導体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導原案は教育研究部が作成し、そのうえで担任・副担任を問わず学年教員で指導にあたる。 ・教育研究部のほか、教務部、進路指導部などの関係部署で連携して指導にあたる。 				
<p>評価規準・評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人、グループで作成した成果物を保存し、評価する。 ・学習に対する振り返りを通じて、学習過程における能力や態度の伸長を評価する。 				

単元	月	探究の過程	学習内容・学習活動	時数	学習活動（場所）	各教科・特別活動等との関連・指導上の留意点等
地域の 問題 解決 探究	4月	課題の設定	○2年次の成果を踏まえて、「地域」の設定と「地域の問題」に関するテーマ決めをおこなう。 ○テーマに対する情報収集	3	個人・グループ (各教室)	○希望進路との関連をはかる。 ○新書・新聞記事等を活用する。 ○朝読書の活動とも連携する。
	5月	情報収集		3		
	6月	整理・分析	○集めた情報の整理・分析を行う。	4		
	7月	発表	○研究発表	3		
	8月	発展的探究	○平和学習	1		○サミットを踏まえて平和について考える。
	9月	まとめ	○小論文作成	4		○各クラス単位で、HR教室等を活用して行う。
	10月			4		
	11月	発展的探究	○自己実現型探究活動 (興味関心に基づく探究活動、地域探究活動の継続、面談、個別学習)	4		○自己の興味関心を深める探究的な活動、地域探究の継続的な活動を行う。 ○面談や個別学習を平行して行い、類似した進路希望を持つ生徒同士で情報交換を行う。
	12月			3		
	1月			3		
2・3月	3			○社会の一員としての自己の生き方・在り方を考えさせる。		
備考	○全員にファイルを持たせ、全ての資料を保管させるとともに、クラウド上に活動記録を残させる。 ○「ふりかえり」の時間を設定し、探究活動の記録を生徒自身にとらせる。 ○1時間は平和教育プログラムとして、8月に平和探究をおこなう。					

